明治四十三年二月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主幹 海老名彈正
主筆 安井哲子

要目

親の愛　安井哲子
吾國家庭の缺陷　梨本宮御用掛　櫻井鉚子
滯歐所感　東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎
新人（お伽話）　憐花生
虐待に勝ちし婦人　奈良高等師範學校教授　藤堂忠次郎
現代女子の宗教　海老名彈正
隨感　安井哲子　元良よね子

第貳巻第貳號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第二號目次

●親の愛　安井哲子

想苑

●滞歐所感　東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎
◎吾國家庭の缺陷　梨本宮御用掛　櫻井鉚子
●新人（お伽話）　憐花生
●孤島生活の一日　藤郎生

家庭

●虐待に勝ちし婦人　奈良高等師範學校教授　藤堂忠次郎
●新らしき武装　海老名みや子
●何故に感冒は恐るべきか　醫學士　金子魁一
●家庭に於ける信仰　なを子
●肌着の裁ち方　長尾いと子

講壇

●現代女子の宗教　海老名彈正

雜録

●雜誌瞥見
●隨感　安井哲子、元良よね子、相原生、坂手宗市、鈴木生
●彙報、新刊紹介

御報次第早速品物持参御覧に入れ申すべく候

本場はまちりめん

近江國長濱名産

濱縮緬反物　小切れ　兵兒帯
うづら縮緬　濱　絹　かざり織
眞　綿　濱　蚊　帳　其他いろ／＼

右は直接織元より取寄せ販賣致候に付

品質よろしく　價格やすく

本場に於て御求め被遊候こすこしもかわり御座なく候

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地中の橋通り

ちりめん屋　**山田常愛**

郵税振替貯金　東京一四六七五番

染もの御取次ぎ致候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會・員・募・集

共立女子職業學校 櫻友會內 女子手藝普及會編

女子手藝講義錄

今日只今
速に入會せよ

御夫人―令孃―學生方に申し上げ候

此の講義錄は各專門の方が多年の實驗により丁寧親切に說明してありますから如何なる初學の方にも了解が出來ます且つ一々圖書を以て教示してありますから親しく教師に就ゐて學ぶと同じであります

如斯內容
豐富なり

裁縫科（和服洋服）　編物科（各種）　組糸科（各種）
刺繡科（各種）　袋物科（各種）　造花科（草花各種）
果實科（各種）　割烹科（和洋各種）　細工物科（各種）
手藝用圖畫科（各種）　手藝教授法（各種）
其他課外講義數種

入會申込所
東京日本橋角
電話本局四一四番
振替東京二三八番
大倉書店

一ケ年修了

每月一回發行
◀第四號發行▶

內容見本 入會規定 進呈

京都御染物

本檳榔子黑
江戸褄模樣類
新柄小紋色々

東京市小石川上富坂二三(コーツ邸內)

京屋　佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

カメリヤ
洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の
巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀
なる美貌は最新の化粧法により配
剤せられたる高等美身料カメリヤ
洗粉の常用によりて
顯はる本品の小量を
微温湯に溶解し洗面
を試みよ花香芬々と
して心身爽快を覺
ゆるのみならず顏
面潔白となりて艶
を生じ年若き花の
顏となるべし
定價
大瓶 壹個 廿五錢
小瓶 同 十五錢
大袋 同 五錢
小袋 同 三錢
鑵入 同 十三錢
發賣元
ライオン齒磨
本舗
東京神田
小林富次郎

和洋
御菓子
漆器類
諸金物
雑貨類
其他何品
に依らず
御値段を以
て御用達申上候

あれこれと迷ふ世話なき

大便利商店

小石川小日向水道町五四

萬進物調進所

梅月堂

御一報次第
直ちに参上
仕可く候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新人第拾壹卷第貳號

目次

◎帝國教育家の反省を促す

●教壇

◎團體に於ける基督　海老名彈正

●想苑

◎日本文明と基督教　哲學博士 文學士 三澤糺

◎氣質と宗教に付て　富永德磨

◎カアディナル、ニューマンの二大訓言　文學士 川島金五郎

◎余が信仰の告白　津荷環山

◎第二イザヤ　山口金作

◎シナとアンテア　佐藤清譯

●聖書研究

◎シモンペテロ　海老名彈正

●雜俎

◎幕末先覺の片影　文學士 海老名一雄

◎プラグマティズムとは如何なることか　木村久一

●東都講壇

◎平和協會々頭就任演說（大隈伯）◎社會政策大會講演（河上學士）

●時潮小觀

◎我國將來の宗教　思潮子

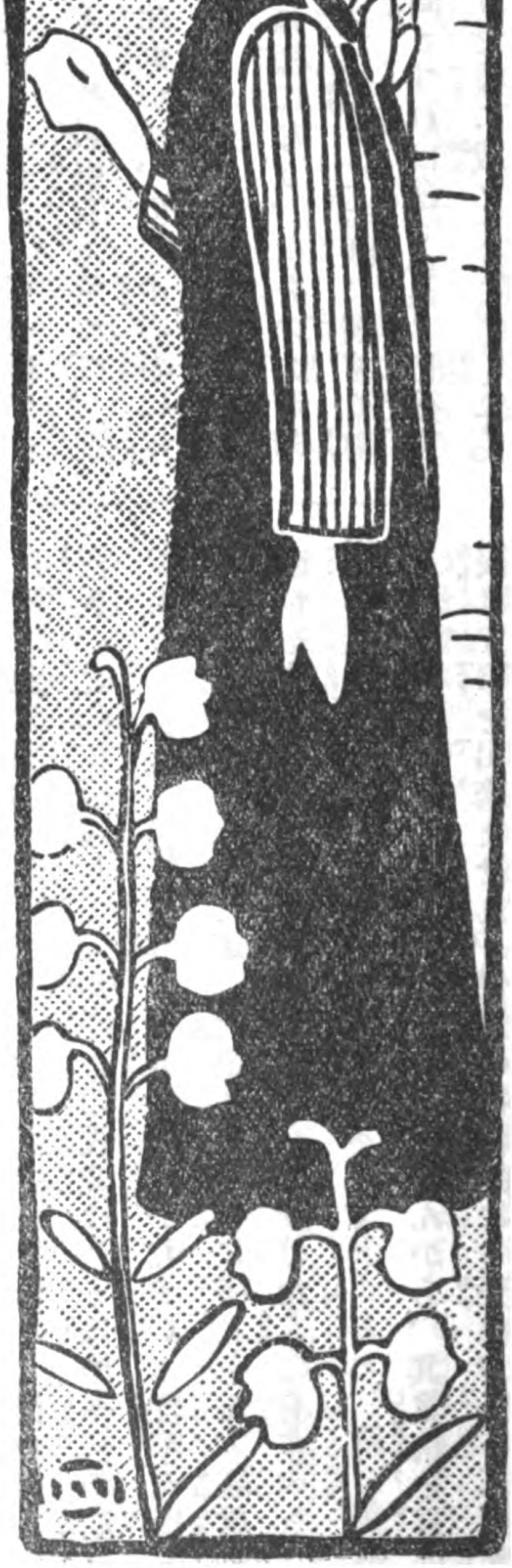
●時評

◎外國宣敎師に對する吾人の態度　三澤糺

◎吉野君を送る　社中同人の一人

◎彙報　◎編輯だより

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



親の愛

安井哲

私は生來非常に子供好きでありますが、可愛い甥を與へられましてから、有らん限りの伯母の愛を之れに注ぎました。此幼兒が遊びに來ます時には、積る用事を打棄てゝ抱きもし、守りをもしますから、非常に能く私に懷いて居ます。處が終日如何に樂しく遊んでも、夕方になりますと、必「母さんの御家に歸りませう」と悲しげに云ひ出します。如何なる慰めも、如何なる賺しも、決して聽き入れません。そこで時には止を得ず夜に入つてから、遙々と送り返へす事もありますが、母親の顏さへ見れば安心して、再私と遊びます。私は茲に初めて、子供の感ずる親の位置は、何人でも之れを奪ふ事が出來ぬ者であるといふ事をつくづく覺りました。

▲愛情の感化

かく幼兒が其親を慕ふ自然の情程、淸く貴い者が外にありませうか。古の忠臣義士も此暖かな情に浴して生れ出でた者であり、賢人君子も亦此淸き愛に感じて作り出された者であります。如何なる誘惑に導かれた時でも「親」といふ觀念が浮んだ時には、自然に反省する樣になり、如何なる苦痛も「親の爲め」には、忍ぶ事が出來ます。其故に親の愛を感ずる間は、先非行から遠かり、之れを味はぬ者は惡事を敢てする樣になります。昔の人が忠臣を孝子に求め、貞婦を孝女に求めたのも、大に理由ある事であると考へます。

▲次第に變化する子の愛情

然るに親は子と、年齡の差が甚しくありますから、其住んだ時代、敎育を受けた時代が同じくありません。子は世の中が一層文明に進んだ時代に人と爲り、學校敎育も終つて、見聞も廣くなつた頃には、親は旣に年老いて、世の中の事には次第に遠ざかる時期となります。そこで幼少の時に、神の如く信じた親も、智識上次第に信せぬ樣になり、自分の方が却つて賢くある樣に考へて來ます。玆に至りては親に對する尊敬の念も次第に減じ、謝恩の情も時とすれば薄らいで、自分自身に成長もし、自力で敎育でも受けた樣に感じてまゐります。かくなつた人の子ほど不幸な者はありません。殊に現時の社會では、才智學問及伎倆が少しく他人に勝れて居ます時には、其親の身分に係はらず、立身出世を爲す事が出來、其結果として、位置ある人の娘を妻に求める事がありますが、時には殆三十年近くも辛苦艱難して敎育された親を忘れ、身分が卑しいとて、此大恩ある吾親を、子たる自分の家に近づけないといふ人もあります。或は彼「想夫憐」の樣に、現在吾親を親として、其夫に紹介する事が出來ぬ不幸な娘もあります。

▲犧牲的なる親の愛

然るにかゝる冷淡な待遇を受けても、親は尙其子を愛して、陰ながら其幸福を祈つて居ます。何たる純潔の愛でありませうか。此神に近き無私の愛を感せずして、自利の生活を樂しまうとする子は、實に無情な動物といはねばなりません。私は曾て亞米利加の某大學生が、卒業式に其母なる田舍婦人を招ぎ、之れに感謝して「吾今日の成業は全く母の辛苦の結果である」といひながら、其手を取つて泣いたといふ記事を讀んで、感涙に咽びましたが、此學生こそ實に子として、正當の感情を有する者で、又眞に高等敎育を受けた人の有すべき、心の狀態を表はした者であると考へます。

私は人の親としての實驗を有ちませんから、其眞情を言ひ表はす事を出來ません。併親の犧牲的なる愛は、子として充分に經驗して居るのみならず、又幾多不幸なる他人の親の心

情を聽きました。親は實に其與ふる愛に對して、何等の報酬をも豫期致しません。そして其子の親切は如何に僅少でも、非常に之れを善び、其子の不孝も決して恨ます、常に變らざるの愛情を注いで、彼等の幸福を祈つて居ります。私は實にかく無慾無私なる人の親に代つて、其子に「孝なれ」と勸むるのであります。

▲親の愛と神の愛

眞に親の慈愛に觸れた者は、神の愛を感ずる事が出來、深く神の恩惠を感ずる者は、親の愛をも味ふ事が出來ます。如何なる罪人にも常に無限の愛と同情とを與ふる者は、此世に唯神と親とがあるのみであります。人は生れ落つるや直に其親を識り、其保護の下に安全と幸福とを求めて、何の愛も煩も知らぬ、絶對的の信用と依賴とは、實に切つて切られぬ骨肉の美しき關係を表はして居る者であります。そこで又親に對する此やさしき心情を神に移した者は、卽信仰となるのであります。そして此無私無限の愛と、之れに感應する美くしい心情とが、外部に廣く擴がつて活きます時には、卽他人に對する親切となり同情となるのであります。

▲愛は事業の根源

そこで總ての敎育事業や、慈善事業等は、人類に對する無限の愛情が外に發揮した者でなければなりません。愛なき敎育、同情なき慈善事業は、如何に組織が廣大であつても、其事業の眞價はありません。然るに世には其精神を失つた種々の社會事業があります。之れは所謂事業としての事業で、愛情同情等の外に表はれた結果でないのであります。單に義務として從事して居る仕事は、如何に其仕事の性質が高尙でも、其高尙な所以は已に失せて居ます。例へば偉人の後を慕ふは美くしい事でありますが、其心情に觸れずして、其仕事の形のみを模倣する時には、其仕事に生命がありません。純潔なる親の慈愛不變なる神の恩惠に感應したやさしい暖かい心情が、他人に向つて動いた時に、初めて生命ある事業が出來るのであります。彼十七世紀中の偉大なる敎育者として知られた「コメニユース」が

「予は永久の愛たるキリストに無限の感謝を捧げ奉る。何となれば、主は人類に對する無限の愛を吾が胸中にも置かせ給ひ、且又人類の爲めに、能く其賜を發揮せしめ給ひしが故てある」

との感謝は、彼が敎育に對する興味の、實に人類に對する無限の愛から湧き出でた者であるといふ事を了解致しませう。されば親の愛に觸れざる兒、神の惠を感ぜざる人ほど、世に不幸なる者はありますまい。私は無言なる親の爲に孝を勸めんよりも、寧感謝の念なき子の爲めに親の愛を說く者であります。

滯歐所感

佐々木吉三郎

▲衣食住の上より見たる西洋の兒童

敢て珍らしい觀察と云ふ譯ではありませんが、概括して云ふならば西洋の兒童は一般に無邪氣で天眞流露の態度があるやうであります。日本の兒童に良くある他人を見てはにかむといふ事は彼地の兒には全然ない事であります。之は育て方に原因するのでありまして、衣食住萬事形式の末に拘泥せず、日常の所作に於ても又は喜怒哀樂を表出する點に於ても、それが道德上悪い事でない限りは、何等の束縛も制駐もせず小言も言はないといふ育て方でありますから、自然にのんびりと大様に順當に成長するのであります。

一體兒童といふ者は天然の性質を其儘に表はして、何等の修飾をも加味しない態度が最も可愛らしく見えるものであります。動物に於ても小犬が雪中にころがつたり小猫が鞠を追ひ廻はして戯れたりしておる姿は、其無邪氣な天眞爛熳な點を遺憾なく表出しておりますから、人をして實に可愛と思はしめるのであります。兒童も亦然りで自然的態度を側から、いゝませた、人工的装飾であれこれと捻くらない方が如何程可愛く育つか知れません。それを日本の家庭では兒童の中から成る可く小供らしい可愛らしい點を取り除かうと勉めておる樣に見ゐる。お腹がすいてゐても他人の前では一杯だと云ふ樣に敎えたり、客への挨拶などもませた大人びた事でも云ふと、お怜悧さんだなどと賞め上げたりする。丸で虚僞の稽古を兒童にさせておる樣なものであります。

之を衣服の上から見ますること

衣服が主か身體が主か一寸解らぬといふ樣なのが、日本の母親が衣服に對する心持であります。兒童が外出する度毎に「着物を汚しちやいけないよ」といふ。偶々轉んだとか何かで泥に

でもして歸ると「もうお前には着物を着せない」といつて叱る。だから兒童は衣服を汚すまいといふ心配の爲めに、其遊戲運動に於て活潑といふ事が非常に妨げられる、それ故自由自在に運動して他に何事をも顧慮せず思ふまゝに遊び暮らすといふ事は出來難いのであります。

西洋では兒童の衣服は單に輕便といふ事を主なる目的として調製される。一寸野原に散歩に出かけても手當り次第に木の株があれば腰を掛ける、芝草があれば寐轉ぶといふ有樣で何の遠慮が要らぬ。これが日本の兒童なら着物を汚しちや叱られるといふ心配があるので、疲勞れても腰が下せないと云ふ有樣であるから、之が爲に日本の兒童は自由活潑敏捷といふ事をどれだけ妨害されておるか知れない。衣服の仕立方でも西洋は實に堅固で丈夫である、鬼ごつこに一寸袖を握られるとビリ〳〵と綻る日本の仕立方とは全然違ひます。又

住居の狀態

から云ひましても西洋の兒童は幸福であります。大抵の家庭には子供の室がありまして、雨や風で外出が出來ない場合にも、自已の室で各々好む處の遊戲を自由にやる事が出來るのであります。日本では可なり富豪の家庭でも特更に小供の室を作つておく處は少ない樣であります。日本の兒童は自已の住居を有しないと云つてよいのであります。雨で外出が出來ない時西洋の兒童は自己の室で自由に愉快に遊んでおるのに、日本の兒童は母の室で遊びを始めればウルサイと追ひやられ、椽先で遊べば騷々しいおとなしくせよと叱られる、おとなしくする事は誠に大切な事ではあるか、然し之が爲めに兒童の自然的性能を矯めて不活潑ないぢけたひねくれた性質を植付けて仕舞ふのである。遊戲は小供に取つては眞面目な事業であります。大學の先生が其研究室に閉ぢ籠つて研究をやつておるのと何等の差異がない。兒童が諸種の花を摘んで喜んでおるのは之れ植物學の研究である、蝶やばつたを捕へるのは動物學の研究で、泥土をいぢくつてるのは之れ地質學の研究といへるのであります。かく遊戲は小供にとつて大切な事であるにも係らず、遊戲と云へば直ちに小言を連想するが如き兒童は決して大樣にのんびりとは育つ事を得ないのであります。遊ぶにも自由に遊べないといふ兒童程不幸な者はない。之は單に兒童の不幸のみでない、かくして成長し來る兒童の爲めに國民的意氣及態度の上に多大の損害を被る事は尠少くない事だらふと思ひます。更に

食物の上から

見ましても西洋の兒は物を食するに面倒臭い制限を受けてお

らない、運動場でも食ておる、十五分間の休息の時も男女兒童共歩きながらパンを噛つてたるのも見受けます。日本人の目には一寸變に見えますが、西洋の父兄は運動しながら物を食る事が何が惡いと云つて何の怪しむ處がないのであります。

以上衣食住の上から見て西洋の兒童ば實に自由に快活にのんびり育つておる事を申し上げましたが、私の見まする處によれば天然の事情も亦此の性情を助けておる樣に感じます。例へば松や柳などの植物でも皆眞直に伸び育つてるし、ベルリンの市中を歩いてもつながれた馬一匹見た事はありません。萬事がこせ〳〵せず悠然迫らざる態度があるのには實に羨望に堪へませんでした。

以上述べました處の差異は日本と西洋と道德の根底を異にするから起る現象でありますが、漸を追つて彼等の如く大樣なのんびりした而も自由快活なる氣風を我日本の兒童に與へたいものだと思ひます。

▲服裝の改良

私は將來の吾國女子教育の上に注文したいと思ひます事は女學生の服裝であります、私は洋服を以て必ずしも理想的服裝とは思ひませんけれども、洋服の地質は非常に好ましいと思ひます。又夫で堅固で、雨に逢つても變色もせず褪色もしないから洗張などの手數が掛らない、夫れ故特に兒童の衣服に適當しておるのであります。日本の女子の衣服は大抵銘仙で或は羽二重縮緬などいろ〳〵ありませうけれど、裂け易く汚れ易く且一度雨にでも逢ふものならだいなしになつて仕舞ます。かゝる衣服は活動的兒童にも亦國民にも決して適當なものではありません、西洋でみまするど大概な雨では男兒も女兒も傘などは持つて歩きません。十四五歲の女子でも裾短く袴をはいて、もゝ立ち高く取つたといふ形ですから、泥がはねる恐れもありません、學校道具を脊嚢に入れて脊負ひ、其上のマントを着るか又は其下にコートを着るかして、平氣で雨中を步いております。一見誠に身輕でキリ〳〵して勇ましく見えます。それに反して日本の女學生が雨中を歩く姿は如何です、包を擁へて長い袂を苦にしながら、脊を丸くしてはねを上げないやうに拾ひ足で歩いてる其姿は、實に非活動的で之が勃興的國民の子女であるとは思はれないのでありま す。此れが上流社會の子女になると又更に厄介な服裝をなしておりますので、即ち帶は何とか結びの、板で以て身體を抑ね付けた樣、下駄も高く重いものをはかせる、如何したら自分の子を弱々しそうに育てる事が出來るかを考へておる樣に見えます。此樣な事で如何して健康な敏活な女子を作る事が

出來ませう。と云つても女子の服裝には又美觀が必要である事は勿論であります。私がまだ洋行しない前迄は女學生は一般に袴を非常に高く穿いて足の爪先迄を長く見せたものであります。之は肺部を壓迫して衞生によくないと云ふ說が學校衞生の監督者の間から出た爲めか、或は又先の反動の爲めか、近頃は袴を低く穿く事が流行しておるそうであります、成る程私もみましたが甚だしいのは腰の先に一寸着けておる位のも見うけます、成るたけ低く穿くのが女學生間の通だと云ふ評判でありまするが、如何にも見苦しい事夥しい。
　要するに私は子供の服裝は成る可く身輕にさせて、坐作進退運動遊戲凡てに於て快活敏捷なる動作が出來得る樣にしたいと思ひます。

男女交際と結婚

　日本人は歐米に於ける男女間の交際は非常に容易なものであつて、從つて戀愛なども自由なものと考へておる人が多くありますが、之は大した間違であります。日本人が考ふる程自由なものでなく而も中々嚴格を極めております。年頃になつた娘が單獨にて男子を訪問したり又は散步をする事は殆んど無い事で、稀に大學豫科の學生と高等女學校の生徒とが散步をしておるを見ないではないが、實に無邪氣を極めた者で何等の懸念を惹き起すに及ばないのであります、而も斯る事は非常に稀な場合であります。一般の家庭では女子に男學生と交際を禁じはしませんが、談話をする時は必ず身内の者が附き添つておりますから決して間違は起らないのであります。例へば十五六歲の女子と大學生時代の男子が互に手を取つてやるダンスの稽古でも一定の時間があつて夜八時から十時迄といふ樣に制限されておるし、各々附添人が側に見ておる事でありますから、日本人が想像する樣に何等の危險が伴はないのであります。私も其仲間に入つておりまして、實は如何なる弊害があるかに注意した一人でした。此樣に踊り廻つてる連中のうち一組位の結婚者が出るだろうかと友人の一人に聞きました處、馬鹿なそんな事は斷じてないと答ひました通り實際其間は嚴格なものです。
　扨て此處に互に相愛する男女があつたとする、然し彼等は結婚を無造作なものと考へないから、戀愛をするにも打算的である、相手の性質や學識を調べるのに何も不思議はないが、財產の多少を非常に重く見るのであります私の知人の娘が或る男と結婚をする相談が調へましたが、其男の當時の收入が妻子を養ふに不充分だといふので、娘の父母は男の收入の增す迄結婚を許さない、不幸にして其男の收入は三年の間增なかつたので男は非常に失望に沈んだが、私の歸國する少し前

に或る會社に勤務する事となり、相應の收入を得たので四年目にして漸く結婚する事が出來たのでありますが、私は彼等の戀の冷刻なる運命と其男の眞面目なる辛棒に驚かざるを得なかつたのであります。

私は斯る結婚の善惡を論ずる者でありません、元々道德の立て方を異にする國柄でありますから、日本人の目には異様に感ぜられるのであります。兎に角歐州に於ける男女交際は中々嚴重であつて、これが良家庭であればある程嚴しいのであります。婚約をするにも冷刻と思はるゝ程の觀察調査をなして然る後に行ふ事であります。吾日本でも近來男女交際の聲高く聞ゑますが、男女交際より起る弊害を痛切に知らない爲か、或は急に交際を始めた爲めか、時々間違が起つて不幸な取り返へしの付かない境遇に陷る人を見受ける事でありますが、畢竟するに之は御互に余りに早く氣を許し合ふから起る事だろふと思ひます。相手方の人物如何に注意し研究的態度を取つて交際したなら誤なきを得る事と信じます。且つ男女交際は結婚を最後の目的としてゐないのですから、文學なり音樂なり何なり其好む處に於て淸き交際を續けたなら、御互に益する處が多いだろふと思ひます。

私は今更に英國の靑年女子の態度を羨望せずにはゐられません。愛嬌がないといふ非難は被つてたりますけれど、切り立つた巖石の様にシヤンとして構へておる處は一見人をして襟を正さしむるものがあります。苟にも男子をして艶しき一言をも發する事を許さない、あの謹嚴犯すべからざる態度には充分なる處女の權威が表はれております。實に斯る態度は唯一の處女の武器であります、吾國女學生諸君には此の態度が果してあるかどうか、私は女學生諸君が自尊自重し謹嚴身を持し以て高潔なる處女として精神も肉體も充分光輝あるものたらしめられん事を切望する者であります。（文責在記者）

吾國家庭の缺陷

櫻井鉚子

去歳梨本宮妃殿下に隨行して西洋各國を漫遊して新たに歸朝されたる櫻井氏を本鄕區駒込西片町に訪ふて、洋行中の所感を聞きました、聞く處多くありませんけれど有益なる觀察として之を讀者諸君に薦め得る事を喜びます。（文責在記者）

何か洋行中の御話といふ事で御座いますが、此度は宮樣に御隨行申し上げて歐州各國の帝室を訪問致しただけの事で御座いますから、一般に御話し申し上ぐる事が尠ないので御座います。帝室に係はる事は妾としては恐多い事ですから一言も申上ぐる事は出來ません。格別耳新らしい事ではありませんが、洋行中二三氣が付きました事を申し上げて見ませうなら、第一彼地の家庭内の諸事萬端非常によく整頓しておる事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で御座います。日本の家庭で特にお兒さん方でもゐらつしやる處では、一般に不整頓勝ちなものでありまして、其處の奥さんの口實も「子供がおるので取り散しまして」とあるのが普通なやうであります。處が西洋の家庭では各自の品物は各自が整頓する習慣でありますから、例へ多くの子供がありましても、子供は子供自身で各自が仕末して他人の厄介になりませぬから、萬事が整頓して見るのであります。他人の厄介にならぬといふ事は單に家庭内を整頓せしむる許りでなく、最も大切な氣象を小供に與へるのであります、即ち成長したる後自ら働き自ら助くる獨立心を構成する基礎となるのであります。

日本と西洋とはもと〳〵家庭の立方が違ひまして、日本は家族的であり西洋は個人的でありますから、日本には一家庭の品物は誰れの所有といふ確な觀念がなく、手當り次第其處にあるものを使用するといふ有樣であります。尤も斯るやり方にも美しい處は認められますが、不知不識の中に兒童をしをして他に依頼心を起さしめ、まさに自分の爲さねばならぬ責任をも他に課して怪しまぬといふ悪い習慣を誘導するのであります。之は單に兒童の上許りでない、日本の社會一般にかゝる氣風がある樣に思ひます。例へて申しますなら或る家庭に誰か死亡したといふ不幸が起つたとしますれば、其不幸に對しては其家庭が全然責任を負つて葬式や其他萬端の事をなさねばならぬのでありますのに、親戚よりの助力を當然要求してよいと思つてるが如きは甚だ面白くない事だと思ひます。尤も親戚の不幸に對し互に出來るだけの好意を盡くす事は誠にうるはしい事ではありますが、其好意は此

方から要求すべきものではないのであります。又一人が事業に成功するか或は顯職に就く身分になると、親戚はよつてたかつて其人の厄介にならうとするのは日本の社會に甚だ多い事でありますが、之も日本人に獨立心が缺乏しておる一の證據と見る事が出來ませう。自分の事は自分がするといふ西洋の氣風には一面冷刻な個人主義の陰影が伴なつてはおりますが、他人の厄介にならぬといふ獨立獨行の精神は實に美ましい事と思ひます。

次には西洋は公德が非常に進んでおる事であります。此點に付いては日本人は全然氣風を異にしておる樣に見えます。石地藏を見れば石の一つも抛げつけて見るといふ實に殺閥な破壞的な處が子供の中から表れております。左側通行が公衆の便利だといふので巡査が左側々々と注意しておるにも拘らず、知らぬ貌に右側を通行する、尤められると小理屈を云つて巡査に食つてかゝるやうな　反抗的な處が現時の靑年に見ねます。從順に命令に服する事が意氣地なしとでも思つてるらしいのであります。斯の如きは實に一國の耻辱であつて、此弊風から脫しない中は、日本は偏狹な小國民であると云はれても仕方がなからうと思ひます。東京も以前から見ると樂書はズツト少くなりましたやうです。斯ういふ風に漸次惡弊が矯められて、各自が公衆の利益を重ずる氣風を養ひたいものであります。

第三に西洋の婦人は學識が汎く趣味が豊かである事であります。交際が上手な事は申す迄もありませんが、會話を致して見ますると其智識が多方面に渉つておるに驚きます。藝術は尤論政治經濟の事に迄口が出せるのであります。其智識の根蹄は深い事はありますまいが、兎に角男子を對手として立派に學問上の話が出來るのであります。單に自國の事許でなく他國の事も熟知しておりますから、外國人との交際にも差支を見ないのであります。日本の婦人なら自分が關係しておる僅少な部分の智識のみで、自國の事でも他の方面になつて來ると一向御話が出來ないのと比較しますれば實に雲泥の差があります、特に著しく感じてまゐりました事は、外國語の發達といふ事であります。之は婦人のみでなく一般に進んで來たのでありますが、妾が二十年程前に洋行しました時には、店先に英語を話すと看板は出しておきましても、這入つてみると一向話せなかつたものですが、此度まゐりました時は何處へ往つても外國語の話せない處はなかつた位です。

妾は日本の若い女子の方々には是非外國語の習得をすゝめたいと思ひます。智識は如何しても西洋から流れて來ますから、外國語を知らないのは一大損失であります。自己の修養の上にも多方面から其材料を得られる便利があります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それから趣味の豐かな點、これには私共明治の過渡時代に生れて、實際的必要以外に手を出す事を許されなかつた者は――尤も出す暇がなかつたのですが――一體が無骨に出來上つて、音樂繪畫讀書などに依つて優美な高尙な趣味を養ふ事が出來なかつたのであります。之からの若い方々には是非趣味を多方面に養成して、之を以て自己の生活の資料としてもよく又は慰安の爲としてもよかる可く、何れ後々自分で家庭を作られる時に、之が爲めに一家の空氣が淸く美しなつて、實に立派な花が綻る事であろうと思ひます。西洋では夕の團欒には必ず音樂を奏して樂しみます。ピヤノやヴアイオリンの妙音を聞きながら一家擧つて樂しみ合ふ處を見ますと、何とも云へない嬉しさを感ずるのであります。

趣味は個人の慰安許りでなく、團體の氣風にも影響するものでありますから、婦人の諸種の會合に於きましても、日本はまだ衣服の競爭と云ふ樣なつまらぬ事柄がいろ〳〵起つておるやに聞きますが、高尙なる趣味が普及致しましたら、之れ等の弊風も自然と一掃する事が出來るだらふと思ひます。

新人

憐花　稿

或る所の或る村に一人の子供が居た。その子供といふのが、至つて怠惰者で、まけず嫌ひで、亂暴者で、大法螺吹きで、吝嗇者で、いや早やモウ箸にも棒にも終へぬ厄介者で、友人の誰れ彼れが逃を張つて相手にして呉れぬ許りではなく、親身の兩親でさへが、「持たぬ子には泣くまいにのう」と何時も憂ひある顏に蒼つ白い色を浮べては人知れず泣くのであつた。

古人の詠まれた歌に「子を思ふ親ほど親を思ひなば世にありがたき子とやいはれむ」と申してありまする通り、子を見ること親に如く者は他にありませぬ。自分の子供は何うなるだらう、過ちがなければよいが、人並みに成人して呉れればいいが、風を引ぬ樣に達者であつて呉れる樣にと、飮み食ひも何も忘れる位ゐにして居て、下さるのに子供の方では少しもそれを有難いと思はぬのが多數である。「子供を大事にして可愛がつて呉れるのは親の務めではないか、今更子供がうるさいなら、何故生んで呉れたのだ何故育てて呉れたのだ、殺して呉れればいいに死んだ方がましだ」など〻自由氣儘に不孝を働く者供が多い、誠に歎かはしい次第ではないか。此の

子供も慥に其の内の一人であつた。朝、嫌々ながら起されて顏もロク／＼洗はないで食事をして學校へと門口丈は出るのだが一日中何所かで道草を喰つて、友人なんかが歸る頃になると濟まして歸つて行く。そして一も二もなく僞言で固めた話をする。先生の惡口、友人の惡口なんかを口から出任かせにいふ。自分が道草喰つた事は御棚に上げたつきり、兩親にほめられ樣と蟲のいい事ばかりを考へるのが此の子供の性質であつた。

が何樣によく化かしの上手な狐でも背の皮が見ねる樣になると反て人間に化かされてしまふと同じに、此の子供の惡智惠が次第に現はれて來たので、サア兩親の驚き樣つたらない。色々と手をかへ品をかへて矯しなをそうとしたが、とう／＼力が及ばなかつた、兩親は思ひ切つて、「持たぬ子には泣かぬ、他人の子供がましだ」と又同じ言を繰り返した。

一人息子の惡太郎は翌日から父母の側を離されて勘當の身となつた。友人共に泣きついても見向いても呉れぬ。何だか故鄕に居たまらなくなつて、今は寄る邊ない淋しい己れ一人の身を漸く引きずつて知らぬ旅路に上らねばならぬ。「嗚呼自分が惡るかつた」と今更後悔はしても追つく譯のものではない。オイオイ／＼／＼泣きながら夏の日の眞つ盛りを野の小路を横切つて大きな池の側りにと出た。

草は青々と繁り渡つて木の葉は綠の色が深い、小鳥は草から草をぬけて木の枝に美しい聲で歌つて居る。野には野百合の花だの桔梗の花が香水を散らした樣な匂ひをもらして我れこそ野の主人と云ひたげな風情である。風は靜に吹いて夏といふ感じは更にもない。惡太郎は自身の悲しさも打ち忘れて、「オゝいゝ景色」と叫んで見た。そして水際の所迄來て足を水にひたすと、マア何と冷たいことオヤツと、足を引かうとすると、足は何者かに捕つて一寸も動かない、そして見てるまに世間が眞赤になつて眞赤な大風が眞赤な沙塵埃を蹴立てゝ吹き起つた。青い草も綠の木の葉も、野も山も池の水までが眞赤となつて、おまけに池の水は熱湯と變じて、惡太郎の足は今にも爛れそう。悶躁けばもがく程、熱さがますので流石の惡太郎も絶體絶命、が、どうする事も出來ない。お父樣やお母樣を呼んで呼んで聲をからして助けを求めたけれども露程のしるしもない。何所からともなく長いものが飛んで來て、ピシャリ首筋にまきついた。「オレは蛇だよ汝が兼ねていぢめた蛇だよ覺悟せよ」といつた樣に思はれる。又ピシャリ今度は鼻の先にかじり附いた。「惡太郎忘れはすまいね、汝に眼の中に灸をすねられた蟇蛙だ、サア只ぢや濟まさないぞ」と胸に響く。右からも左からも上からも、前から後から敵の面々押寄せたとも。押寄せたとも。バッタがたゝく攻め太皷、

リン〳〵ジャン〳〵チンチロリン、思ひ〳〵の鬨の聲、いちどにどつと攻めかゝつた。「如何に惡太郎、斯くなる上からは天命だと諦めて、甲をぬいで降參しろ、さもない時には熱湯の中で弄殺、サア返答はどうぢや」と詰め寄せ詰め寄せ矢の催促。「返答をせぬのは降參がいやでか、いやならいやと判然申せ貴樣の足は仲間の蟹殿に賴んであれば迚もの事に許るされる氣遣ひはない、今の内なら命だけは助けて遣はす。返答に時間をとるならば池のお主に參らするぞ」と威して見たり、すかして見たり。

惡太郎はやつと我れに返り、心を落ちつけて考へて見ると昨日が昨日まで犯して來た身の咎が、一々骨にひゞいて初めて鳥類や蟲類に大迷惑を掛けた事の大罪惡であつたといふ事を知ると共に身慄した。心の底から「己れが惡かつた勘辨して吳れ」と大聲を發して泣き倒れた。

すると如何にも立派な、女の神樣が惡太郎の側近く御現はれになつて「太郎さんや太郎さん、御前さんは本當に改心しなすつたのかい、本當ならマア私はどんなに嬉しからう。私計りぢやない、御前さんの御兩親の御喜びはどんなでせう。御兩親は每日每夜、御前さんが一日も早く眞人間になる樣にと、私に祈つて御出でなさる。太郎さん親といふ者は有難い者ですよ。親は子の爲めにはどんなに泣かされるでせう。サア改心なすつたら永居は無用です。直ぐ歸りませう」と手を引つ張られたかと思ふと、フイと眼がさめて、身は美くしい芝生の上、眞赤であつた空は瑠璃色と變つて草木は生々と繁つて居る。今し方まで身を苦しめた敵の姿も鬨の聲も、見ねもしなければ聞えもしない、遠くに近くに音樂の音かと計り小川の流れが優しう聞きなされるのみだ。

惡太郎は今まで背負つて居た重たい荷物を何所かに投げおろした心地で、段々池の縁を向ふへとやつて行くと道が二筋に分れて何れの道を行つて宜しいか更に分らないので躊躇して居りますと、好天氣であつた空が雨曇りとなつて來て、盆を覆す樣な大雨、惡太郎は路側の大木の蔭に這入つて雨宿りをして居ると、世にも恐ろしい形をしたる化者が大きな鐵棒を杖について、惡太郎を一目白眼んだ。世にいふ鬼といふはあれか知れぬ。惡太郎は逃げんとしたが、ヒラッと飛んで來て惡太郎の舌をつかんだ。「これこの舌は何だ、先生の惡口をいひ、友人をそしり、父母をだますといふ方があるか、貴樣は人間の屑だ、舌の使ひ樣を知らぬか」と、うんと引張つて何所かへ行つてしまつた。九死に一生を得た惡太郎は虎口をのがれ龍尾をさけ、有所艱難辛苦をなめながら秋を送り冬を過ぐして、やつとの思ひで或る奇麗な町へと出る事を得た。

町へ來て見ると、何だか見た事のある樣な人々が立派ななりをして通つて居る。近づいてよく／＼見ると村に於ての以前の友人達なので聲を掛けて見るのだが、無言つてフイと通つて終ふ。自分が此の寒空に單物一枚で居るのを輕蔑しての故か知らんと考へ直して見ても、そうではないらしい。惡太郎は不思議に思ひながら、ずん／＼町を通つて行きますと、向ふの方から如何にも可哀相な夫婦連の老人達が來る。世間に似た人々もあると見ゐて、お父樣やお母樣に瓜二つといひたい位な、惡太郎はオヤッと思つたが、まさか半年位ゐの間にあれ程迄におやつれはなさるまいにと思ひ返して行き過ぎ樣とすると、「其所に居るのは太郎ぢやないか、おお會ひたかつた、懷かしいの……」と惡太郎の身體におすがりになりますと今迄張り詰めて居た氣がゆるんで其儘息を御引取になつた。惡太郎の驚き樣つたらない。、お父樣……お母樣……」と聲の限りに呼んで見ても何の返事もない。溫かかつた身體が次第に冷ゐて行つて、脣は固く結んで終つた。折角、一日も早く故郷に歸つて御詫びしやうと思つた事も水の泡となつた惡太郎は氣拔けがして、これも父母の亡骸の上に泣き伏したなりに氣が遠くなつてしまつた。所が何時かの女の神樣が又々御現れになつて惡太郎をゆり起して、「太郎さん、太郎さん、そんなに氣をお落しにならずとも宜しいのですよ、汝の御友人となつて無言つて通つたのも、汝の御兩親となつて死んだのも、皆んな妾がした事で、汝を試めして見た計りです。御安神なさいまし、皆樣が御達者ですのよ、御變りは御座いませんのよ」と先づ／＼安神させて置いて、又話を續けて仰しやいますには、「でね……太郎さん……汝も十分に自分が惡かつた事にお氣附きでせうから何から何までお改めなさい。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神は決して舊い罪はとがめませぬ。これから生れ變つた人と御成んなさい。新らしい人間と生れ變つて世間の爲めに御盡しなさい。決して弱者いぢめをなさるものではありませぬ。自分がいぢめられた時の苦しさを思ひ出しなさい。憐な者は御救ひなさい。自分が憐まるる時があります。情は人の爲めではありませぬ。心の清き者は福です。神樣に會つて御話ができますから、敵を作つてはなりませぬ。人が若し汝の右の頰を打つたならば左の方も打せておやんなさい。自分で惡かつた事を悟りさいすれば必度過つて參ります。人は慈み可愛がる者です。善行は積まねばなりませぬ。が何も衆人が見て居ないから善いことはせぬといふ樣な事があつてはなりませぬ。隱れたるより現はるるはなしで、神の目には鏡に物がうつる樣にうつるのですから唯で觀て居りは致しませぬ。人の惡口をいふものではありませぬ。先づ己れの事に就いて考へて御覽なさい。自分の惡い所が目につけば人の惡口がいへるものではありませぬ。先づ自分の身から謹んで人を導き敎へる樣にするのが人間の道です。うそいつはりをいふものではありませぬ。人には二枚の舌がありますまい。何でも分からぬ事があつたら何時でも御祈りなさい。改めた人には福を與へます。善は見習ふもの惡は退けねばなりませぬ。何よりも親に孝行が第一、すると君樣への忠義となります。

さあ急いで參りませう御待ち兼ねでせうからね……」と仰やるかと思ふと、惡太郎の身體は自然と宙にういて、神樣に手を引かれて空を飛んで行く。もう餘程來たと思ふ時分に大きな木に衝き當つて、幾千尺の高い空中から惡太郎は眞倒樣に落つると見て惡太郎は夢から覺めた。

親の勘當を受けていろんな場所で恐ろしい目を見た筈の惡太郎は芝生の上にも寢て居ない、暖かい床の中に、しかもお父樣とお母樣との間に抱かれて寢て居るのであつた。

明くればお正月、惡太郎は御居蘇の席で昨夜の夢のことをお話して、これから魂をいれかへて立派な人となるといふことを誓つて、學校に御年始に行つて來るといつて出て行きました。これから新らしい生れ變つた子供となられるでせうか。めでたし〳〵「終」

孤島生活の一日

小笠原島　藤　郎

之は小笠原島に給修行にいつてたられる有田君より野口牧師及同夫人に宛てた私信ですが興味ある手紙ですから、請ふて紙上に掲げました。

日々御多忙のことゝ推察いたします、私は此頃はスッカリ島の人と成り濟まして、一月に一度の船が待ち遠しい樣になりました。御陰で體は非常に丈夫です。此の一月ばかりの中

に一貫目程増加しましたから歸るまでには二貫目は請合です。然し途中の航海で一貫目位は又減ずるかも知れません。今日船が着いてなつかしき都のたよりと共に新人及び新女界を落手しましたが、奥さんの「編輯だより」何時もながら輕妙の御筆、ほど〳〵感服の至りです。然し余り筆が廻り過ぎて僕までもとばじりを頂戴したのは、少々迷惑です。田澤藤郎のかくれ名も今日かぎり離縁いたす積りです少々はづかしいから。

近頃は歌袋はおろか、畫袋もからつぽ、充されて居るのは胃袋ばかりです。

左に「孤島生活の一日」を御紹介いたします。

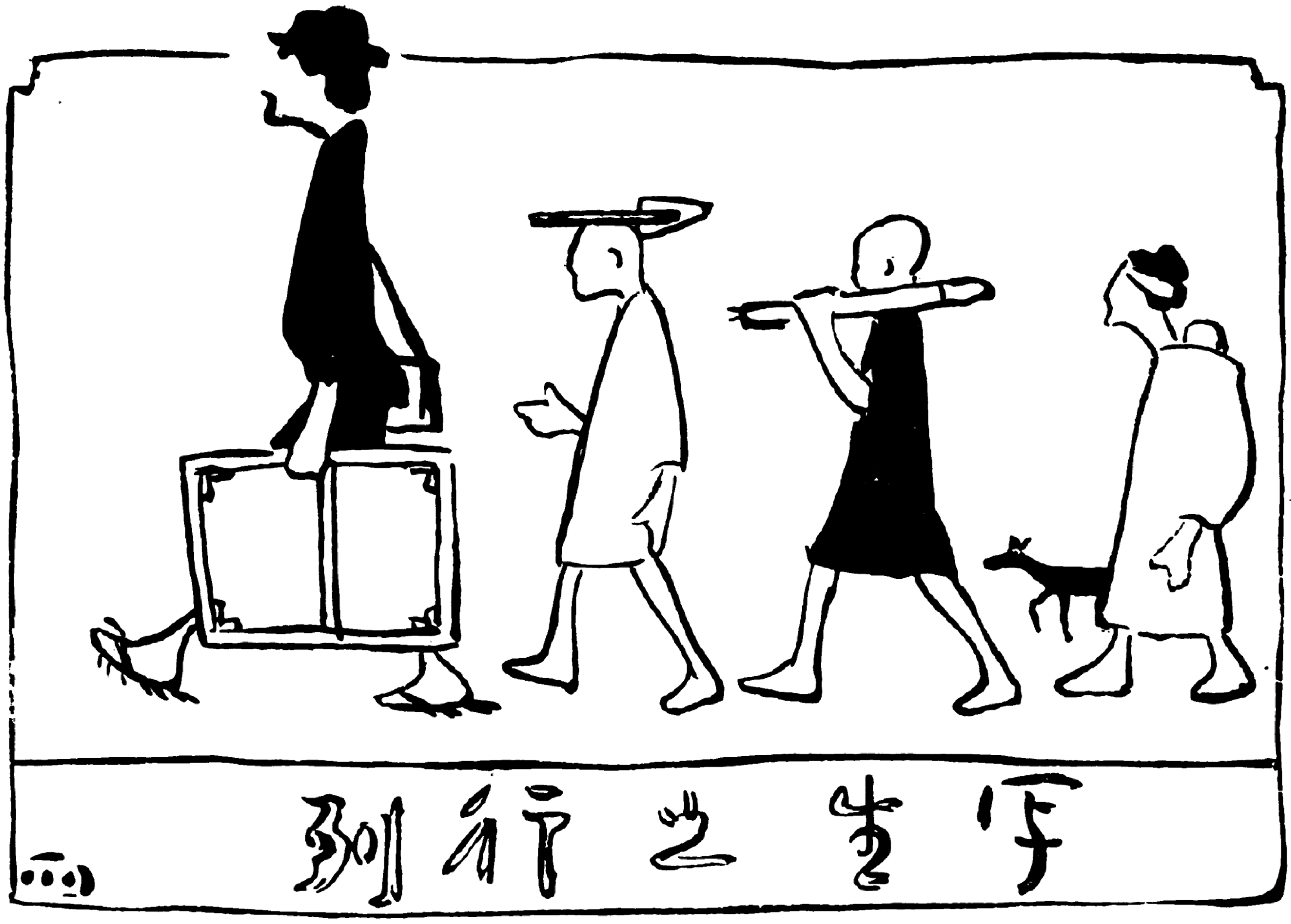
* * *

夢うつゝのうちに鶯の聲を聞いて眼がさめると、眞野君が二階からトン〳〵と下りて來る。（眞野君は島の小學校に奉職してる好靑年です）本館（傳道館）では遠藤牧師も旣に起て居られる。其から例によりて三人揃ふて海水浴に行くのです。揚子をくわへて手拭を腰にぶら下げて出で行く姿は必ずしも感心した風ではない。脇濱と云ふ處で巖の上に衣服を脱いで飛び込むのです。其中太陽は向ふの岬の方からギラ〳〵と上て、岸に摧く白波は一時に金色にかゞやひて來る。私達は其美しき水をかき亂して夢中に成て泳ぎ廻るのです、まるで臘虎の樣に。其より岸に馳け上て手頃の石を兩手につかんで新式の體操をやる。此にはサンドウ先生も舌を捲くだろうと思ふ其が濟めば此度は旅順の砲壘もかくやとばかりの石の砦を築き上げて此に向て手頃の石を亂打するのです。さしもの砲壘も遂にガラ〳〵とくづれ初める。すると萬歲の聲は一時に起る。これが六尺男の惡戯と來てるから、たまらない。側から見たら如何に滑稽だか知れない。歸りには毎日手拭に石を二つつゝんで持て來ます。此は、やがて庭前にバベとの塔を築く積です。

朝飯は大抵八時です。食堂からベルが鳴ると辟頭第一先がけの功名は何時も、かく申す拙者に落るのです。食堂と云ふのは別に一むねに成てるコック小屋ですが（勿論土間）眞中に大テーブルを据へて例の三人と下女と其四方を、とりまいて着席する（下には犬ころも居れば鷄も居る）して其中の一人が感謝を捧げて愈々朝の合戰が初まるわけです。私は御承知の通り都では先づ小食の方ですが、此島に來てからと云ふものは妙に腹がへらない日とてはない、多分病氣ではないかと心配して居ます。そして談笑の中に食事が濟みますと今度はバナ、が山の樣に運ばれる、此はとても内地ではまねも出來ません。

八時半頃に食卓を離れますが、夫から先は各自の務めに從事するのです。遠藤牧師は机に、眞野君と女中とは學校に、私は作てもらつた頭大の握飯を腰に、肩に繪具箱を手にカンヴアスをブラ下げて飛び出します。赤犬のジョン君は大抵僕の御供でしたが、殘念なことには余り惡戯が激しいので、一昨日死刑の宣告を受けて遂に撲殺されました。此には僕は非常に不贊成でしたが、輿論の動く處仕方がありません。

私は書きかけの「孤島の岸」をつゞけに行くのです。道は山に入り谷をこへ一里半ばかりで殆んど人跡斷へて、東岸の崖の上に出る。崖は鑿を以て削つた樣に突如として藍碧の水底に屹立して居ます。而して岸を洗ふ潮流は岩に、ブゝゝゝ、ツッカッて實に物凄い。私は崖の



上の草を敷いて其「孤島の岸」を寫すのです。そして疲れると仰のけに倒れて果しない靑々としてる大空をあふいで冥想に耽るのです。長くあこがれて居つた此南洋の風光は實に私の豫想以上です。一言で云ひますら明るい、カゝゝ、ラットした景色です。空でも海でも樹木でも内地では見ることが出來ない程クリーヤです。私は其カラットした、クリーヤな空氣を呼吸して、さかまく怒濤の咆哮をきゝつゝ茫然として夢幻の境に落ちて行く。急こ頭上で激しき羽ばたきがするので愕然として我に歸ると其は一羽の荒鷲が人あるに驚いて、あはたゞしく沖の方に、かけつて行くのである。二時に成ると早速繪具箱を片づけて、もと來た道を歸て行くのです。道は熱帶の植物が密生してる中を、かすかに

通じて居る。そして其處のリンドウ樹の茂みからは實に銀鈴の樣なルリ鳥のさへづりが此處の椰子の木陰からは鶯のさへづる樣な聲が（鶯は年中なきます）聞へる。夢見心地に半里も來るとあなたの森かげからメーと牛の鳴聲が聞ゐる、かと思ふと此度は遙かに鄙歌が聞ゐる。此處は今、砂糖收獲の最中で、實に砂糖は此島の財產です。

そして家に着くのが三時半頃。此度は又別のカンヴアスを提げて十町程隔つたる山に夕燒の岬を畫きに行きます。まつさをな海に眞赤な岬非常に面白いコントラストですが、ドウしてもうまく行きません。夢中に筆を走らせて居りますと、向ふのケイス、アイランドの島蔭からカノー船が帆を上げて入日にてらされて走て來る。夢の樣です。日は何時しか水平線のあなたに落ちて、マツ赤ま岬が段々紫色にあせて行くと、山も海も蒼然たる暮色に包まれる。空には星が二つ三つ何となく內地より高い樣に見ゐる。私は筆を收めて御得意のブライダル、コーラスを歌ひつゝ歸て行くのです。歸ると湯が立て居る、ドブンと飛込んで一日の疲を流して上るや否や、飯です。一日中の第一の樂しみはこれです、私共は一日のことを語り合ひつゝ笑ひつゝ樂しくイヤと云ふ位食ふ、炊事係をして時々驚嘆せしむるのです。ア、此愉快!! 此愉快を都の人よ、知り給ふや、否や、想像し得給ふやと申上げたい。しかも大洋の鮮魚及び香高いバナ、は斷ゐず食卓に上るに於てをやです。オツト、よだれは御免です。食後は小學校の小供を相手に相撲をとつたり、机について讀書したりしますが、寢る時には二階の眞野君を引つぱり下して座相撲を約卅分ばかりやる。爲に近頃は是で生傷が絕ゐません。此が僕の一日の生活の概略です。勿論雨天の時と日曜はまた別ですが、余り書くと、土產話がなくなるから此邊で切り上げます。然し僕が來てから天氣がドウモ面白くなく、殆んど半分は降られた樣なわけで、製作の方も一向はかゞ行かないで閉口して居ます。

孤島にて　四郎

十二月十五日

芭蕉葉の蔭に停む人ありと
知らでや今日もルリ鳥のなく。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虐待に勝ちし婦人

藤堂忠次郎

記者云、本編は本社が先きに青年子女に推奨して可なる書籍に就き諸先輩の御意見を徴めました時の先生の返書です、都合により前號に載する事を得なかつたので本號に掲げる事に致しました

拝啓貴誌愈々御隆昌斯道の爲敬賀の至りに候、先般青年女子に推奨すべき讀物提供すべき樣御照會の處、差當り恰好のもの無之、寧ろ小生の親しく關知せる事實を推奨する方適切ならんかと存じ、爰に其の梗概を摘録致候。

該事實の主人公ともいふべきは今より七八年前に東京の女子高等師範を卒業したる某子に候。當時小生も東京にありて親しく某子を監護し、常に其の温良にして無邪氣なるに敬服致居候ひき。やがて某子は卒業して地方の某高等女學校に奉職し、小生も亦他地方に轉じ、爾來相逢はざること久しかりしも、暑寒の音信一回も缺かしたること無之候。

去る程に某子は良縁ありて東京に嫁し暫人も羨まんばかり多幸なる生活を營み候ひしが、出産の爲一時郷國に歸りて後歸市したるに、意外にも家はいぶせき矮屋に變り居、姑も良人も手を飜ずが如く冷になり居候。謂はゆる姑の憎々しく口叩きは的確現出せられ日毎夜毎惡口罵詈の絶間無之候。某子の憂心いかで哺乳に影響せでやむべき、最愛の乳兒終に病を得て身まかりしは返々も遺憾に候。

小生は本年一月上京致候次手同家に某子を訪問したるに、豫想以上の陋屋にて玄關の二疊の間が即ち應接室にて外に居間と姑の居室との二あるのみ、姑はさもうるさげに小生の顔を見遣りて奥へ避け行き申候、某子は面痩れ手荒れ骨も露はに色も蒼ざめて往年の快活無邪氣なりし面影は毫末も相見え不申候、當人は物言ふを憚り唧々として落付かざる樣なれば長坐は却て惡しかりなんと見明夜を約して立去り申候。

翌夜約を違へず某子乳兒を抱へて小生を旅館に訪ひ候により思ふまゝ言語を交はし候某子は決心を面に現して斷然離婚を申込み郷里に歸らんことを謀り申候、小生は色を正して其の不心得を誡め苦勞の尚平凡たるを喝破致候に某子は痛く失望の樣にて果ては絶え入るばかりに身をもだへ泣き申候。斯くて徐ろに小生は面を和げ誠心を以て舅姑に事ふる道を詢々として説諭致候ひきさすがに悧憹なる某子は飜然として心機一轉し其の夜は家に歸り小生の東京を去るや一書を寄せて更に大に悟る所あり一道の光明の前途に認めらるゝを勇み喜ぶ旨を述べ越し候。

爾後久濶互に動靜を知らず經過候に此の程左の通りの音信を寄せ來り申候

「其後は思ひながら久しく御無音いたし試に御申譯も御座なく候。さて先生はじめ御一同樣には御機嫌如何に渡ら

せられ候や御伺ひ申上候。去りぬる一月二十九日の夜かの森田館に於ての御教訓一日として忘れ申候ことなく、一意專心御言葉を奉守し家庭の圓滿を計り申候、御別れ申候てよりはやくも二月さり三月さり、花に月に都人の遊びくるへる頃私のみは何の樂みなく心やりなく、唯々いとしの子を相手に目的地に達し得べきやう身を筒袖に子供を背に負ひ毎日家事に寸暇もなく御恩ふかき先生への御たよりも怠り申候深夜目覺めては時々なみだに袖をぬらし候へご又御言葉をくりかへしては自分を慰め强ひて元氣をつけやがて御言葉の如くならんには如何ばかり愉快ならんとそれのみせめてもの樂みに候六月より七月にかけ子供か病氣いたし吉松病院に入院仕り下旬退院はや母重患にてこれまた一ヶ月餘にわたり候其時私はこの時こそ實に寢食を忘れて看護いたし候然るに母全快後は日に〳〵打とけ時々私へも言葉さへかけらるゝやう相成申候去る十月一度實家へ參り三週間許の後歸宅仕り候に又々以前に增しやさしくなりまづ〳〵この頃胸のかたまりも少しくやはらぎ申候。さてかうならばあとは誠にたのもしく候目的も近きうちにとげらるゝならんと存候。先生何とぞ御よろこび下され度候……」

世には人世の問題に憧憬がれて徒に忡々として煩悶せる者某子の大悟發奮を見ては試に愚にもつかざる事に有之候人は多く自ら自個の悲境を造りたるにて憐むべき次第に候讀む人某子の此の事實に依りて幾多心境を開發するあらば小生の此の筆勞は徒爾に終らざるべしと存候至囑〳〵至囑。

新らしき武裝

海老名みや子

今年は元日匆々から誠にお暖かいことで丸で春のやうだと喜んで居りましたが、七八日のころから天候漸く變じ來りまして、雪又雨、雨又雪といふ工合に、降つては解け、とけては積るのですからたまりません都大路到る處泥田となつて仕舞ました。折惡敷も去月十五日婦人會の例會を小石川は場末の、電車の便もない、其道路のあしき事に有名な林町の自宅に開きました。前夜來の雨は夜半より雪と變じまして、眞白に泥田の上をおふてをります。そして雪はなを小やみなく降つてをりますので、一度足を運べば、雪と泥は足駄のはをうづめて、其困難は申されませぬ。如何に勇敢な我婦人會員の方々でも此お天氣ではとても御來會はあるまいと、力をおとして形ばかりのお待ちうけをしてをりますと、驚くまいことか青山より此小石川のはてへ、いちはやく御來會になつたのは小山夫人。其勇氣を賞賛して居ますと、程なく鹿子木岡野兩姉足袋も雨具もびしよ〳〵で御來着になりました。それから續々ヤレ長尾氏だ元良氏だとお集りになりましてお晝前にはおもひがけなく十餘名の集會となりました。中には六十からの御老人がせつ〳〵とお歩行で、汗が出たといつて頰も紅のお元氣には一同萬歳を唱へずには居らませんでした。このお元氣な夫人方のお寄合の事とて、氣焔萬丈障子を明けはなしてお雪見ながらのおはなしは、それからそれとはづんで行く程にはしなく藝

者の事に移りまして、某夫人が世に藝者てふものがあつて社會に流す害毒は實に大したものであるから是非これを取りのぞく樣にしなければならないといはれると、一方より老夫人が、それでも其藝者といふものは中々ゑらいものですよ。男子を自由自在に弄ぶ術を知つて居ますよ。其藝者を除くといふには、皆めい〳〵が其術を學んで、それに代らねばなりませぬ、皆樣如何ですといはれたのでおもはず一坐を見渡した處、其術に達しさうなお柄の方が見へないので一同大笑となりました。

すると又一老夫人がごふです皆樣、私共の娘たちにチト交際術を、婦人會で敎へて下さる事は出來ますまいか。さうすれば大變な益ですがとの事に、あすこゝより御同意のお聲が出て、ほんに左樣です私どもの子供も學校と家庭の外は何も知りませんで、それはもう清淨無垢ではありますが、あまりに世の樣を知らないので手放しては誠に心もとない。自分等の幼い時には、親類間の交際や何かで、祝儀不祝儀の席にも連つた事がありまして、諸儀式がすたれた時代とはいへ、本膳の前にも坐つた事がないではありませぬ。おもへば今我々の中に育つ小供は食机に向つてお總菜を食べる事の外、何も知らない樣では困つたものです。何とか御相談をして、折々お客樣ゴッコでもして練習させては如何でしやうとの事に、皆々贊成で話は他に移つて仕舞ました。

これは一場の雜話ですが、しかし、このことがらに付ては、私共篤と研究をとげなければならないと思ひます。私はよくきゝますが、何某と名を知られた人々で自身は大酒ものめばいかゞはしい婦人を身邊に近づけて、更に恥かしともおもはぬ位の人が、其の愛娘の爲め聟ゑらみの條件には、品行方正で願はくば、酒を嗜まぬ人といふ事は、大てい加はつて居ます。其人は妻に對して不人情で不貞の夫ですけれども、子に對しては慈父です。我子をかゝる中に立交らして、其辛酸をなめさせるのは忍びないのです。況や私共の圓滿な家庭に父母の恩愛の下に生ひたつた少女を、この恐ろしい社會に手放す事が如何して出來ましやう。勿論一方にこのやうに濁りに染まぬ清淨無垢の少女がある樣に、又一方には屈せず撓まず風波を押切つて進みつゝある男子もあるには相違ありませぬ。幸にかゝる男子に身を托するを得た女子は、一生の仕合でありますが、ごらんなさい、私共の古くからの友人の中にも、この人はと思つて我一身を托したにもかゝはらず、何時しか其良人は世の激浪に卷き込れ、理想の家庭はめちや〳〵に毀されて、苦勞に細つてる人々が幾人もあるではございませぬか。私共の父兄も傷けられ、我爲に二なき良人もいためられ、玉の樣な最愛の子息までも呑まんとあせつてる社會の不道德てふ惡魔に向つて

一矢報ひずして居られましやうか

敵に後を見せるは恥辱である、まさかの時には女ながらもかなはぬまでも立むかへよとは數百年來敎へられた敎訓であります。が、今はかゝる敎訓も覺悟も反古となつて捨てられて仕舞ました。我身一つすら得まもらで、怒濤の中に葬むられつゝある女子が澤山あるといふ事です。かゝる世の樣を夢にも知らず、世は皆平和で、清潔で、男子といふものは皆我父

の樣に頼母しい人ばかりだと心得てる私共の中の娘だちはどうしたらよいでしやう。不幸にして一度こんな苦しみに出會ましたら、身も心も碎けて仕舞だらうと思ひます。それで私は考へました、困る〱と受身になつて、歎息してばかり居る時ではありませぬ。恰もバクテリヤが私共の身邊をとり卷いてる樣に、此腐敗の空氣は滿ち〱て居りまして、チトの隙にも突入して恐ろしい害毒を加へやうとして居ります。女子も男子も大奮闘をしなければなりませぬ。只可憐の娘等が可愛さうだといふから許かりではありませぬ。此儘に進んで行つた日には我國は如何なりましやう。女ながらも其事を考へましては、一刻もじつとしては居られませぬ。まだ忘れもしませぬ、六年前陸に海に、露西亞の大軍を引受けた時の心持はどんなでございました。杖とも柱とも頼のんで居た父も良人も、又玉と愛しんだ子も未練なく捧げて誰も彼も心を一つにして戰つたではありませぬか。さればこそ世界を驚かす樣な勝ち戰も致しました。が、今私共の身邊を襲ふて居る魔軍は、露西亞兵の類ではありませぬ。あらゆる社會に、あらゆる家庭に、あらゆる手段を以て、迫め寄せるのですからたまりませぬ。彼處にも此處にも、見る〱負傷者や死者を生じます。余りに負傷者が多いので、チトの負傷は負傷とも思はず平氣で居るのです。こんな有樣では、健全で無疵なものは、ほんの僅かになつて仕舞はせぬかと思ふと、心細くなつて弱つて仕舞度なります。けれども決して弱つてはいけませぬ。必勝を期して進擊しなければなりませぬ。

正義は最後の勝利者

といふ事は、いにしへいまを通して慥かに證明されて居ます。世はぬば玉の暗と見えても、其中に明星の樣に輝てる義人があります。一度雲をはらへば、數百臆の星は燦爛として光を放つてゐるではありませぬか。此宇宙に輝いてる、此無數の日月星辰の光を、どうして消す事が出來ましやう。罪惡に暗める人々の心の奧にも未だかすかながらも良心の光はあると思ひます。私共の戰はきつと勝ちます。が、玆に其戰に於きまして、最も注意をしてとゝのへねばならぬと思ひますのは武器です。どんな勇敢な氣象を備へて居りましても、突貫ばかりでは敵壘を落す事は出來ませぬ、徒らに兵を傷めるばかりであらうと思ひます。又むかしの後ろ鉢卷に薙刀姿では二十世紀の今日、さても役には立ちませぬ。今日は今日の武裝がいります。たとへは先に申た藝者退治のお話の通りです。彼等の持てる武器は私共素人の思ひも付ぬ程の巧妙のものです。それで私共が口を揃へて、藝者は日本の社會より取り除けねばならないと、どんなに叫びましても、彼等は何の痛痒も感じませぬ。彼れ等は自ら持てる利器を以つて、どし〱切込んで參ります。

然らばどうしましやうか

それは私共が彼等の利器に勝るものを備へる事です。彼らが表面に有ん限の愛嬌をもつて、男子の心を蕩らかさんと勉めまするなれば、私共は眞實心の奧底より溢れいづる愛敬を以て我父、我良夫我兄弟に接してごらんなさい、どんなに快感を與へるが知れませぬ。又彼等が打てば響くといふ樣に隙間なく氣を配りて客を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そらさぬ様にするならば、私共もうつとりと火鉢の前に坐り込んでゐないで何事も先へ〳〵と廻わつて辛い處に手が届く樣に氣をきかしてごらんなさい。家中どんなに氣持がよいか知れませぬ。其外まだ〳〵私共には彼等の持ない利器があります。

それは學問です

私共の學識は淺いと申た處で彼等のとは比べられませぬ。中等以上で、若い奥樣方で高等女學校卒業程度の學問は皆備へて入らつしやると申てよいと思ひます新聞雜誌は申に及ず少し心掛ればある點までは良人と趣味を共にして讀書する事も出來ます。若し幸にして此處まで趣味を共にする事が出來れ

ばなんと仕合でしやう。未だあります。若し幸にして我父我良人が宗教道德に志ある人なれば、一家打寄つて精神上のお話に、夜の更るを忘れる事が出來ましやう。其外皆樣が學校の餘暇お稽古になつた音樂美術お料理等常に應用して一家をおとゝのへになりましたら、何んで他に一時の樂しみを求めに行く必要がありましやう。又この樣な夫人令孃方が種々の集會に出て斡旋されましたら、自ら藝者を招ぐ必要もなくなりましやう。そうすればこれ迄暗がりでは大威張で振舞つて居ても、白晝は藝者よ醜業婦よと、自ら肩身をせまく世を送つたものが、自ら正道に復しまして立派の婦人となる事も出來ましやう。凡て私共の戰ひはこんな風にやり度と思ひます。何しろ今は安閑と、茫然して居る時ではありませぬ寸時も油斷なく凡ての方面に奮闘しなければなるまいと思ひます救世軍は救世軍の持場に於て矯風會は矯風會の立場より教會は教會個人は個人で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

凡ての方面に向つて努力すべきであります。

何故に感冒は恐るべきか

金子魁一

感冒といふと專門的には隨分六ツかしい問題であるが、世間では、體溫か高くなり頭痛がするとか方々の關節が痛むとか、又は鼻水がだらしなく出ると、感冒をひいたのであるといふて居る、まあそれに違ひはない。此の中最も注意すべき事は熱が出る事である、昔から輕い感冒をひいたと思ふて居る中にチブスとか、肺炎とかになつて歸らぬ旅路に行たといふ事はよく耳にする處である。實際からいふ事は少くない、感冒をひいて身體の抵抗力弱くなつた時には、平素よりは細菌のために冒され易いのである。故にかゝる場合には一層衛生に意を注ぐ必要が起るのである。然し一方から考へて見ると、感冒が基で、大病になる場合よりも、初めからチブスならチブスにかゝり居る事が多いと思ふ。其初期は熱が上つて來るので、素人はすぐに感冒であると早合點して仕舞ふ。兎に角、發熱現象は最もよく素人の注意をひくものであつて實際かゝる時には其人の身體に何か異常の起つて居る事は明かである。それで一寸體溫の事を申して見よう。

平淸盛が其晩年、熱病にかゝつて大變苦んだ、水の中に飛込ば其水變じて湯となつたとか、申傳へて居る、勿論今日の智識より考へて見れば馬鹿氣たものであるが多分腸チブスであつたらしい、然らば、人身健康時の體溫は若干であるかといふに、腋下に十分間、驗溫器を挿入して測つて、三十七度が通常であると、西洋人は云ふて居るが日本人はいくらか低いのである、最も身體の大小、年齡、朝夕等によりて自ら少の相違はある、是が熱病の時であると三十八度にも昇り時に或は四十度を超過することもある、反對に又久しく病床にありて衰弱の甚しい病人であると三十六度以下の事もある、多くの場合に大熱を發する事は、急性の傳染病に多い。而して惡寒を以て始まつて來る、肺炎、猩紅熱、丹毒、腸チブス等は是である、又二日目三日目位に一定の時刻になると發熱し數時間にして消失する場合がある、マラリアの如き是である、殊によると朝の中は何等の故障なき人が、夕方になると何だか頭重く、體溫は三十八度内外であるかゝることが數日も續く事もある。何だ是しきの事と我慢しおるものであるが、是が肺結核の初期などに多いと聞けば、隨分恐しいものである。

是れから又、發熱が重な徴候になつて居らない諸々の疾病でも、必ず多少の熱を認め得るのである。

以上申せる如く感冒其者の輕んずべからざるは勿論なれど、素人によりて此の感冒と誤られ易い、諸々の疾病は恐るべき者である、目下一年の中で最も寒冷を極むる時、感冒ひきなどが大流行である、讀者諸姉は此邊に少しく注意を用ゐられん事を切望す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭に於ける信仰

なを子

▲私は教會などへ行きまして、一家擧て禮拜にまゐられ、お母さんはお子さんの手を、お祖母さんはお孫さんの手を引いて、いと睦ましく日曜を樂しまるゝ方を見ますと、何と云ふ事なしに嬉しく感ぜられて、日常に於ける其人の家庭のうるはしさなども思ひやられるのであります。

▲現時の基督教會は全く個人の禮拜處であつて、未だ家庭の禮拜處とならないのは甚だ遺憾の事と存じます。尤も日本の基督教は未だ若い歴史の上に立つてをりますから、家庭の信仰となるに至らないのは致し方もありませんけれど、然し私は教會の力を待つてゐずに、之は基督者自身が各自に引受けねばならぬ當然の責任だらふと思ひます。卽ち父たり母たる一家の主長の地位に立つ人は子女なり又は下婢なりを同じ信仰に導く爲めに出來るだけの力を盡すべきだらふと思ひます。

▲同じ信仰と申しますと個人々々の信仰の自由を認めないやうにも聞ゑますが、必ずしもそういふ譯ではありません。之が幼年の子女ならば父母の言行及び家庭全體に流れておりまする趣味の力で、不知不識の中に影響を及ぼして、拔く可らざる宗教的情操を與ふる事が出來ますが、之に反して幼年の時斯樣な境遇に育たずして普通教育以上の高等な教育を受けた子女は曲りなりにも自分の思想を持つておりますから、父母は信仰を强ふる事は出來ません。青年は無理な事に對しては强烈な反抗力を持つてゐるものでありますから、却つて子女を墮落させる原因となる事がありますから注意しなければなりませんが、然し父母が家庭の事柄を取扱ふ其行爲が眞實神に對する敬虔なる信仰より出て、又子女に對しても眞心からの愛を灑いだなら、之を見る子女は如何して自分は自分だといふ樣な態度を續ける事が出來ませうか。それで私は家庭の信仰は全く懸つて上長たる父母の心柄にある事と思ひます。

▲信仰を同じくしたる家庭の實に幸福である事は今更申し上ぐる迄もありません。若し妻にして信仰なき夫を持つたなら、如何にして吾夫をして善き信仰に導く可きかに苦心し、姉にして無信の妹を有つたなら、誠心精意其姉の爲めに力を盡したら、美しき信仰は必ず其家庭をして地上の小天國たらしむるに至る事と信じます。

肌着の裁ち方

長尾いと子

これは私の友人が其兒の下穿きが小學校の運動などの折、たび〳〵脫落して困るとの事で、御相談を受けて此肌着を調製致しましたら、活動にも至極便利で、そして脫け落ちる煩ひがないと申されまして、私の子供にも常に着せて居ります、其仕立方は圖の通りに致します。

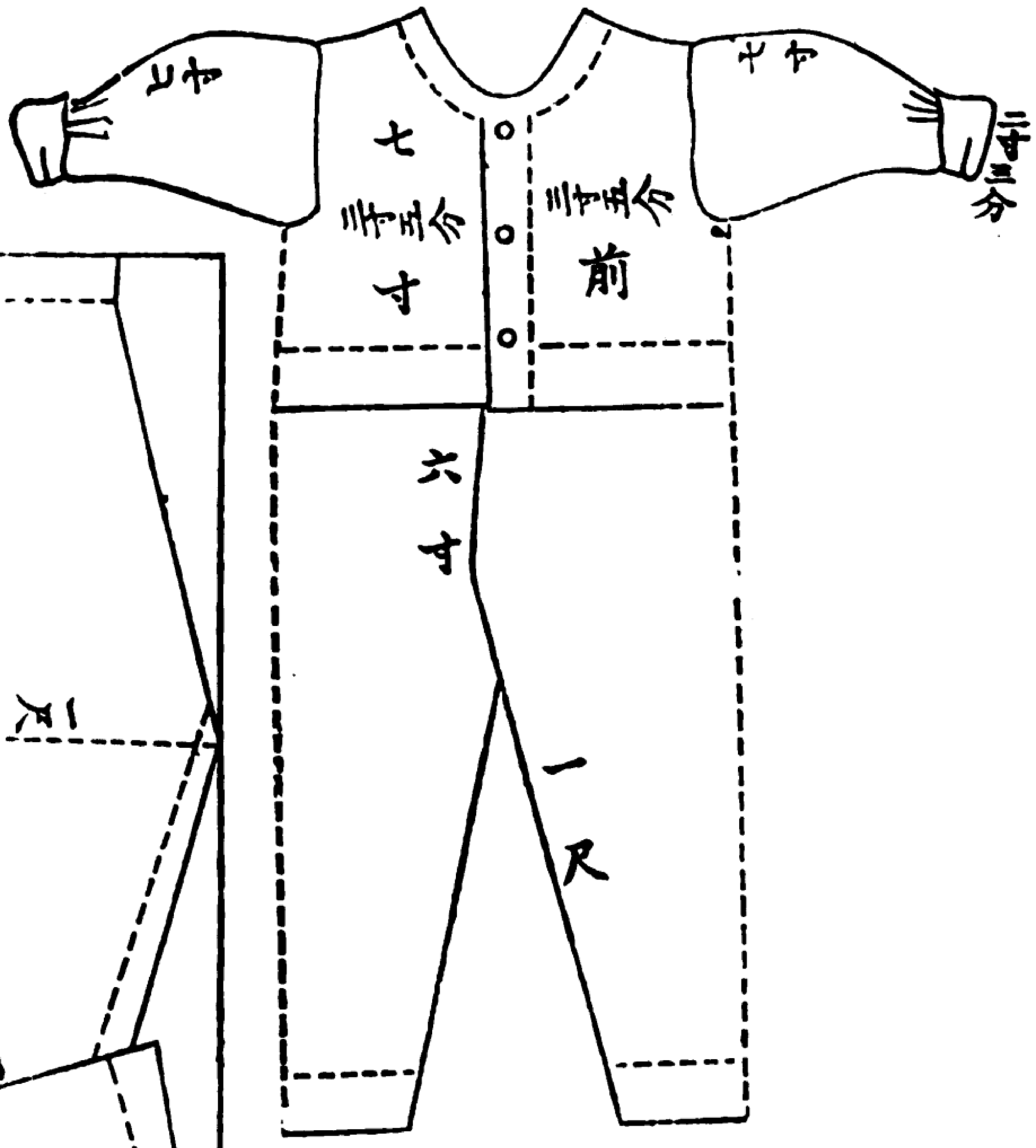
第一　左圖は肩及び首周圍に細き切れを付けて縫ひます

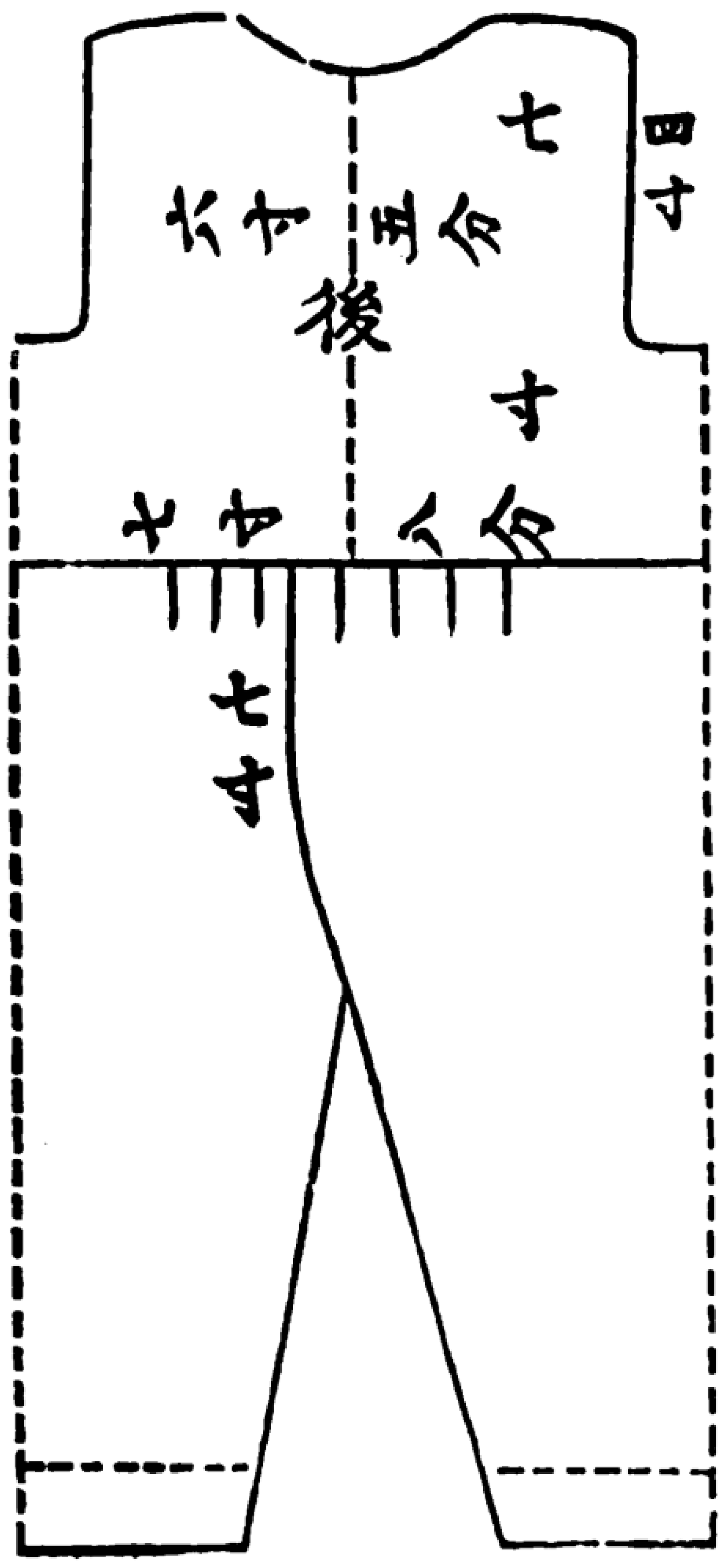
第二　袖口を縫ひ袖下を縫ふ

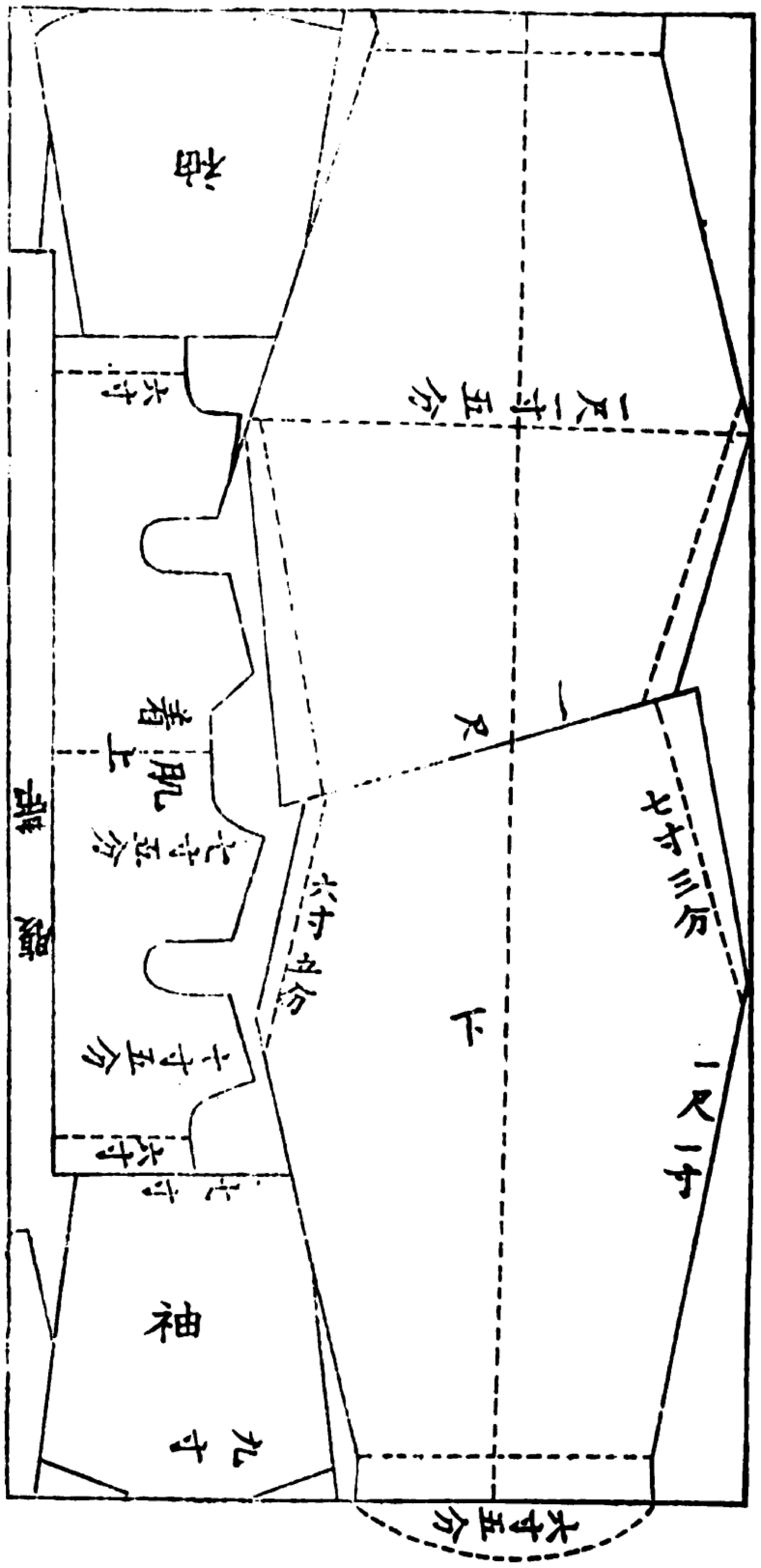
第三　袖附は袖下よりつゞきて縫うも可なり

策四　胸の處を八分程折りて左右とも縫ひます

第五　股下を縫ひ股上を五分程折りて







後前とも縫ひ、後ろを左右八分程かさね少々ギャダをこしらへて、上下を合せ、腹帯を附け、三枚にして縫ひ、裏は總てチドリ縫ひにして、切れを折らずに仕立る方がよろしいようで御座ります

現代女子の宗教

海老名彈正

路加傳十章に見ゑて居るマルタ、マリヤと云ふ姉妹の話は誠に興味の深いもので初代のクリスチャン達も多分此話をして喜んだ事であらうと思はれる。故に此話は聖書に加へられたばかりでない。過去千八百年の歴史に於て如何に人の心を引いたか。試に歐羅巴の博物館或は美術館などに行つて見るとマルタ、マリヤの畫は必ずある、就中マリヤの畫は主なる所にある。自分は聖書に現はれたる此二人の性格を通して現代婦人の學ぶ可き宗教を見る事が出來ると思ふ。マルタと云ふ女に色々說があつて或は寡婦と云ひ或はシモンの妻と云ふ。けれども兎に角女主人であつた樣に思はれる。從つて家の事はスッカリ引き受けて我が手一つに萬事をやつて居る。人の知るが如くイエスの弟子は一人二人ではない。而して此等の弟子は始終イエスの供をして居つた。然るにマルタは此等の人を滿足させやう、立派に御馳走をしやうとして働く誠にけなげな事である。他の記事に依るとイエスが世を去り給ふ前にベタニヤに宿つて宴會を開いた際にも此マルタは主人となつて接待したと書いてある。如斯マルタが働き手であるに拘らず妹のマリヤは凝乎として基督の側にお話を承はつて居る。餘程性格が違ふ。マリヤは客を尊んで接待するが客の言葉に身が入つて他の事を忘れて了ふ。基督の云ひ給ふ一言を聞て接待も何も忘れて、心は唯醉ふ樣に覺ゑて、恍惚として居る。忙しく働いて居る姉は之を見て、イエスに妹は此忙しいのに一向手傳つて呉れません、どうぞ貴君から仰しやつて下さいと訴へたのも無理はない。又後にベタニヤでイエスに價貴き油を注いだのもマリヤの樣である。周圍の人は餘りの贅澤にあきれた。けれどもイエスは目前に死の迫つて來る暗膽たる光景の中に可愛き心盡しを喜んでこれは葬式の支度である。我が福音の傳へらるゝ處には此女の業も傳へらるべしと云はれた。思ふにマリヤは所謂腕のある人ではない。

其處の慈善事業、此處の貧民窟と心を世に走する人ではない。事ろ平和なやさしい人である。云ふて見るとマリヤは中古式で、マルタは近世式である。一は冥想し、一は活動する。此二人を對照して更に今の世を見ると云ふ可らざる味がある。

内と外

コリンタ書に娘を婚姻さするか、させぬかと云ふパウロの議論のある事は多く人の知る處である、パウロは婚姻をすれば心を注いで基督に從ふ事が出來ない。どうしても世に泥みて夫の事、家の事などに屈托をするけれども、獨身なれば心一つに基督を奉じて他に束縛さるゝ所がない。結婚も惡くはないがせなければ更に善いと云ふて居る。此一言で中古式の芽が既に彼の中にあつた事が分る。而して段々と此等の思想が積り積つて中古の女德となつた。路加傳の記者も強いてマルタを惡いとは云はぬが、何處かマリヤに肩を持つた樣な書き振である。卽ち中古まではマリヤの勝つた時代と云つても差支はない。然るに一度宗敎改革の起るや、世は一變して、マルタに見らるゝ如き新方面が現はれた。近世と中古とを比べて見ると、婦人も餘程違つて居る。今之を宗敎の上から區別すると、一は内界で一は外界である。勿論内界と云ふも、外界と云ふも、究むれば同じものであるが、人の通つた跡方を辿つて見ると明に此區別のある事が分る。一は英雄の事を成す所で、一は思想界卽ち坐禪觀法の一路である。けれども此二つは何時迄も袂を分つて居らる可きものではない。必ずや相合して一となる可きものである。故に活動ばかりして居ると終には倦きが來る。不成功に終つてつまらなくて止める計りでなく、大成功の人も亦堪ゆる事が出來ないで別天地を開きたくなる。中古に於て英雄が事を用ゐて功未だ終らざるに遁世の心早くも生じて修道院に殘る月日を送つたと云ふが如きは、正に這般の消息を傳へたのではないか。我國に於ても長明の如き、西行の如き、何れも多くの將來を有した人である。然るに曉の鐘の音に世の無常を觀じて身を墨染の衣に更へた内界も亦これと同じく、それのみでは寂しくなつて居られなくなる。これは時代としても、個人としても、同樣で彼に行き、此に行き、絶えず變つて居る。例へば中古に於ける歐州の文明は寺院にあつた。美術と云はず、學問と云はず凡て其處に集つた。然るに近世になると事業熱が勃興して鐵砲を作る。軍艦を作る。凡ての文明は製造場を中心とするに至つた。而かも面白く感せらるるのはそれ程忙しい中にあつて印度思想を好むものが、其處此處にある。活動の世界に居ればこそ忙しい。外を見ればこそ虚榮心も出て來る譯である。けれども内界に入るとそれが無い。人は働く事も好むが、時あつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はうるさい都の塵を離れて、心靜に山里の花でも摘んで見たくなる。然うすると肉の養はなくとも身體は肥わる。其處は誠に神秘の境であつて何よりも美しい。人は誰でも無限を慕ふものであるが、神秘はそれを直覺せしむる。議論で行かうとしても行けない所を直覺して神が我か、我が神か紙一つ隔てなき妙境を自覺するのであるから、其樂しさ喜ばしさは言葉の外と云はねばならぬ。マリヤはそれを選ばんとする人である。恁う云ふ風な女は今でもある。況して中古の時代に於ては十重にまつはる恩愛の絆を振り拂つて尼寺に、一生を送つた者も尠くはない。然るに外界は功名利達で手腕を要する。「グラフイク」であつたかと思ふが近頃の雜誌に某夫人が元祿時代、王朝時代　足利時代と云ふ樣に色々の服裝をして寫眞を撮つた所が出て居る。其處は宗教とは離れて居るが、人心も見えて面白い。然うかと思ふと外界に動いて却つて宗教的になることもある。ミス、ウイラードの如きそれである。彼が矯風會に盡した有樣は誠に男優りと云ふ可きものである。如何外に向つて働く事に依つて或は慈善事業となり、或は感化事業となり或は政治運動となる。英國の婦人が示威運動迄やるのは、必ずしもお轉婆と云ふ計りではない。一種同情す可き點もある。けれどもこれは所謂時代の反動であつて俄にほめる譯には行かない。

さらば今の女子は何れに歸着す可きか

思ふに現代女子の努む可き道はマルタとマリヤの融合である。外界と內界、活動と靜寂。此二つの相反せる主義が合して一となつた時に、初めて完全に近いものとなる、似ても似つかぬ正反對のものが一となるかと云ふのは不思議の樣であるが其處が宗教である、宗教は矛盾せるものゝ調和である。神は無限にして人は有限である。神は清く正しきに拘らず人の子は罪惡に泣く汚れの身である。けれどもこれは日常彝倫の上から見るとすぐ分る。マルタとマリヤは性格に於て違て居るが更に深い所に於ては一となれる。姉として、妹として別つて見れば相容れざるものがあるが、其父母に歸れば一である。父よと叫んで萬人皆一となる我等の宗教の面影は、此處に宿つて居る。神には外界もなく、內界もなく凡てを統一したものである。其神の思し召を受くる時に矛盾せるもの、反對せるものは一と成る。獨り現代と云はず宗教はいつも此に來なければならぬ。從來の宗教は動すれば迷信に流れた。觀音と云ひ、不動と云ひ、大師と云ふ。多くはこれ迷信の塊である。宗教は病氣が癒るとか利益があるとか云ふ樣なものじやない。苟も教育ある女子は其を踏み破つて宇宙の根底に行

かねはならぬ。之を哲學上から知らうと思へば骨が折れる。けれども近く親子兄弟の關係より移して見ればよく分る、自分の側には父もある。母もある。夫婦もある。兄弟もある。しかも其は個々別々に離れたものでなくして等しく神の御業の現象である。之を淺く見て淋しき尼の生涯を送らんとしたのは偏見と云はなければならぬ。我々はもつと實際の生活に踏み入る必要がある。成る程、世の中にはいやな事もある。汚い事もある。けれども今はそれを離れて居る可き時代ではない

夫を喜ばさんか神を喜ばさんか

と二人の主人ある如くに見るのは淺薄なる考である。今日の我國の狀態では容易に調和の出來ぬ困難もある。けれども夫を清くし、夫を助ける事は基督の喜び給ふ所である。我この小さき兄弟に盡すは我に盡すなり。之を知らなければならぬ。家庭は清い處である。昔の寺院のみが清いのではない。否尼寺必ずしも清くないばかりか、却つて厭ふ可き弊風もあつた。けれども幸にして人の妻となつて、其夫が清い人であるならば家庭程清い處はない。寺よりも、宮よりも、神聖なる處である。昔ゼロームが云つた。パレスタインの野邊深く入りて瞑想すれば、羅馬にありて見し婦人踊るが如しと。神聖なる家庭にそんな想像はない。坐禪に於て荒野に於て修むる孤獨の中には如斯想像があるかも知れない。けれども夫に

信ぜらるる妻が、家庭に於て如斯想像を廻す事は斷じてない。神より授けられた子を育み乍ら夫を助け父母に仕ふる事は清いではないか。今日と雖女子にして家庭を持たぬ人もあるがこれは特別で、普通には家庭は女子の寺であり、教會である。マルタの如く働くと共に、マリヤの如く靜に深く入る事は大切である。朝から晩迄臺所で働くのが、女子の職分と思ふのは間違である。少くとも三十分や、一時間は靜に考へて、心を澄す心懸がなければならぬ。昔は朝起きると佛壇の前で禮拜をしたものだが、今は何事も簡易を貴んで飮む事食ふ事ばかりに心を勞する。それ丈では簡易生活も餘り望ましくはない。我々の活動は貴い精神的の安慰を得る爲である。之を要するに現代の宗教は倫理的でなければならぬ。宗教と云へば家を離れ世を離れなければ出來ぬと思ふのは大なる間違である。我々は飽迄も人間社會に入つて神を見なければならぬ公明正大にして地を見て恥づるなく、天を見て恥づる事がないならば、其處に安慰がある。平和がある。心の何處を見ても夫に向つて云はれないものはない。息子娘に話せないものはないと云ふ清い精心を抱いて進んで行く時に宗教が存する女子の生命は家庭を外にしてない。成功も此處にある。樂園も此處にある。其家庭をして寺院たらしめ教會たらしめ天國たらしむる時に女子は救はる。

▲家庭を同情の發現所となせ

佐治實然

家庭は人々の同情が發源した場所であるさ云ふ考へを起さればならぬ。全體家庭は社會さ違つて居る。社會には偉いものが出て大きな働きをし、多くの仕事をすれば、従つて社會から優遇せられるが、凡人は之に反するさ云ふ所から、従つて無數の階級を生じて居るのであるから、大社會を料理するさ云ふ場合には、どこまでも權利義務が經緯さならればならぬが、家庭は其れではいけぬ。どこまでも同情の發現から生じたものでなくてはならぬ。若しもさうでなくて、親は子に養育の恩を被せ、子は親の看病にまで報酬を要求するさ云ふやうでは、家庭の改善どころか、一日だつて治まつて行くさ云ふことは出來ぬ、大人は朝夕に勤勞し、小兒は且暮に機嫌よく遊び、男子は男子の役目、女子は女子の役目を分擔し合ふて、互に恩に被せず報酬を希はぬさ云ふ所に和樂も圓滿も保たれるのである。で、私は彼の權利義務づくめの社會が、無味乾燥の砂漠なら、此の溫かい同情の發現せる家庭は清泉の湧く綠林のやうなものであらうさ思ふ。此の家庭の改善かどこまでも發展すれば、社會も家庭の如く、國家も家庭の如くなつて、所謂理想郷を此の人間世界に實現するに至るに違ひない。か、斯うなるには、此所一世紀や二世紀の內では出來まいさ思ふ。併しながら一家だけの改善ならば、少しの注意に依つて直ちに成功を遂げられるであらう。で、私は最初申す如く、國家社會の改善發達を望むものは、先づ第一に一家の改善から企つてかゝられればならぬさ云ふのである。(警世)

▲女子に對する男子の禮儀

文學士　三輪田元道

女子の教育には、女禮さか女子の心得さかゞあるが、男子の方には男禮もなければ男子の心得もない。これは甚だ片手落のことであつて、女子に「女大學」がある如く、男子にも「男大學」が必要であるさ思ふ男禮さか男子の心得とかいふことは、吾々の日常生活の上には極めて必要のことであるから、之を今日の言葉で言へば紳士道さも云ふべきものが是非必要であるさ思ふ。現今の如く、女子の方で如何に男子に對する心得方を八ヶ間敷く云つたところで、中學校の青年に女子に對する心得が無い以上は、其の効果は極めて薄いものである。そこで男子教育の上からも、社會教育の上からも、是非男子の女子に對する心得さいふものか必要である。是れまで、男女間の關係を見るに、多くは男子の方が發動であつて、女子は其誘惑に陷らなければ宜いけれども、若し萬一それに應ずることになるさ、女子に取りては實に由々敷き大事で、全く致命傷を負ふことになる。之は女子の自業自得さは云へ、まだ頗る氣の毒な次第であるから、男子の女子に對する心得は此際どうしても必要である。(警世)

▲進んで努力すべき時

東京高等商業學校長　澤柳政太郎

今日女學生の墮落する最も重もなる原因は、女學生に一定の見識がないからです一寸男子に戯られても、直ぐ怖がつて逃げる、男は益々面白がつて追かける。畢竟弱味を見せるから、之に乘ぜられるのです。若し男子に戯むれられたら、直ちに其無禮を責める、言葉に表はして咎めなくさも、其態度に於て凜然たる决心を示す。さいふ位の見識が最も必要です。此見識さへあれば、表面は風にも堪へぬ優しみあつても內に侵すべからざる節操の威力がほのめいて居ますから、男子の方が弱味があるだけに、益々赤面して引き退ります。これが最も身を全うする方法です女子か唯だグニャ〳〵で、柔婉一方であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る間は。どんな取締法が設けられても如何に監督を嚴しくしても、殆んど効能はありますまい。

殊に女たらしな業さするやうな色魔は、大抵好男子です。着物の好み、身體のこなし、寸分隙がないので、大に女子の心を惹くに足ります。故に感情的な女子は、容易く其巧言令色に魅せられて了つて、生命よりも大切な節操まで献げて、それでも己の墮落を知らないのであります。そこになると、西洋の婦人は聊か優つて居る所があります。（婦人くらぶ）

▲宗教の根抵が無くては完全なる教育は施されない

日本女子大學校學監　麻生正藏

維新前までは兎も角も、迷信にしても一家一家に於て、ちやんと守る所があッて、其の家の家庭教育の方針と云ふものが確立して居たのであるが、維新後萬事舊慣を打破した結果、舊慣習は廢たれて、新慣習か未だ起らない、故に家庭教育が非常に危險なる位置にあると云うて宜しいと思ふ。神を禮拜する事は迷信であると云ッて笑ひ、佛を信仰する事は偶像崇拜であると云ッて退ける、然らば如何なる信仰があるかと云へば何もない、其の日其の日を送ッて往くと云ふに過ぎないのである、斯くては到底根柢ある家庭教育は行はれないのである。私か京都に於て最も感心したのは、北野の天滿宮に參詣して見ると五年日參、十年日參と云ふことが石の燈籠に彫刻してあるのだが、假令迷信であッても神が我が事業を助けて吳れるものと信じて、十箇年の間日參すると云ふ其の精神さへあッたならば、何事でも成就するのであッて、迷信が必ず迷信では無いのである。其の他病氣が平癒するやうに神佛に願を掛けて每日參詣するなど云ふ事は、今日の文明から見れば甚だ妙に見ゆるのであるが、精神が確かであッて何か據り處がある爲に、病氣も平癒する事があるのである。何れにしても宗教心が家庭に入らないでは　完全なる教育は出來ないのである。學校の校長なぞは、人格が高尙であッて、其の土地の人々からは生き神樣のやうに尊敬せられて、社會改良風俗維持等の中心點とならればならぬのであるから、學校内の教育ばかりでなく社會の教育にも注意して、家庭に宗教的思想を入れるやうに務める事が必要であると思ふ。（家庭之友）

▲食事に籠りたる情味を解し得ざる市民

東鄕昌武

我邦では友人を招待する時は、都市にありましては多くは料理屋に注文したものを供へます。態々招待した時ばかりでなく、不意に來客のあつた時でもオイソレと近きあたりの料理屋に命じて品質の分らない食膳を供へます、主人も妻君も恬として、之れを自家の恥ともせず、客に對しても失禮とは思はない。人によつては却つて斯かる食膳を御馳走のやうに思つて居ります。併しながら私は、此んな御馳走に預つたときは何時も左程難有味を感じない、寧ろ手料理の御茶漬に招がるゝ方がまだ味がある、友情が其間に溢れて居るやうに感ずるのであります。

西洋では、人を招待する時に料理屋のものを食卓に供へると云ふことは絶對的にない、一品も殘らず其自宅に於て手料理せられたるものであります。富家に於て下婢下男を多く使用し、平素は是等の者の手によつて料理せられたるものを朝夕の食卓に供へますけれども、會々知己朋友親戚などを招待し、殊に名譽ある人などを招く時には、其家の細君は其日に限り自ら厨に於て手を下したるものを食卓に供へるのであります。そうして其食卓に於ては、其細君は、之は私が料理したものでありますから御賞味下さいと云ふやうな挨拶を致すのであります。料理屋のものを招待した人に供へると云ふことは、實に主婦の恥辱ではありませんか。（婦人くらぶ）

▲初生兒の扱ひ方

櫻井妙子

赤兒が產れたら、何よりも先づ初湯を使はせる事が第一で、是から其の子が壯健に育つか育たぬか好い兒になるか成らないかと云ふ事も、凡て其の子の行末が此の初湯を使ッた後で解決される問題で厶いませう。

溫度の方から申しますと、初生兒には攝氏の八九度位が適當で厶います。それには八九度位の湯タン

ゐを入れた軟い布に其の兒を包むのであります。而して温度は始終變らないやうにして置かれなければなりません。元來嬰兒は外界の温度の變化に對する抵抗力が少しも無いものですから、體温の平均を保たせるのが最も肝腎です。又母親の胎内から外に出れば、直に外界の空氣に體温を奪はれて冷えます故、十分温かく包んで置かないと可けません。之を包む前に柔いフランネルの布にオレフ油を侵し、胴や股の邊をよく拭いて、殊に皺のある所や、手足のくびれ目などは清潔にいたし而して温く包んだ後に、今一度同じオレフ油の布で顔や手足を拭いてやります。之が先づ第一の初湯でムいます。

それが濟んでから二十四時間、弱い子なら四十時間の後眞個の湯に入れるのが順序です。其の室は華氏八十度位にして湯は九十八度位、即ち血液と同じ程の温度にして置いて、桶の縁にタオルを當てゝ怪我をしない樣にするのです。世間では丸裸のまゝ入れる方もムいますがそれは宜しくない、何故かと申しますと裸にしてソロ〳〵湯に入れやうとする間に、外の冷い空氣で身體が冷え、又その冷えた空氣が身に觸れるので、嬰兒は惡寒を催して其の爲に感冒をひく事があります。之を避るにはタオルで能く全身を包んで體軀を入れる前に先づ顔に眼を洗ッてやらればなりません。然うしないと身體を洗つた不潔な湯が小兒の眼に入つて、其の爲に往々眼病を惹起しますから此の注意が最も大切です。

これだけの用意を濟ました後で、身體を湯に入れる時には、褓母は左の手で赤兒の頭を支へ乍ら、右手で充分體を洗ッてやるのです。而して縊れ目や耳朶などは殊に清潔に致します、又石鹸は成るべく良いのを海綿につけて洗ッた方が宜しい。然うして二三分の後に湯から上げ　乾いたタオルの上に載せて之を包みながら身體の一部分づゝを、靜に拭いて乾かし、全身を拭き了ッたなら、直に產衣を着せずに暫時フランネルの布に包んで置きます。又餘り弱い兒でしたら、強ひて湯を使はせないで、其の代りタオルに包んだまゝ九十八度の湯を海綿に浸し、石鹸をつけて少しづゝ洗ッてやるか、然もなければ今日足の方を洗ッて、明日手の方を洗ふといふやうにして一度に全身を浸さない方が宜しうムいます。それに必ずしも毎日湯を浴せないでも差支へありません。

或る產科醫のお話によると、毎日湯を使はせると其の兒が短氣になるとか、餘り數々湯に入れる子は虚弱になるとか、申しますけれど、果して然うかどうかは斷言致し兼れます。私の經驗から致しますと毎日入れるか否かと云ふ事は、體質の强弱によりますので、概して申せば、毎日使はせなくとも、決して害になる事はありません。（家庭之友）

▲婦人と洋畫

吉田ふじを子

婦人は主に如何云ふ畫題を好んで描くかと仰言るのですか、大層難かしい御質問ですね、そりや勿論男の畫家と女の畫家とでは畫題の撰擇やら着眼點やら構想やらが大變に違いますね、同じ景色を見ましても男と女とでは餘程見方が違いましやう、ですが概して申しましたら、草花とか野菜果物とか云ふ樣な靜物其他人物景色何を描いても自然に女性の特種の趣味が現われる樣です、それに又色に就きましても男の方と女の方とは嗜味が餘程違ひます、何方かと申せば女の方は概して華かな明るい調子の色を好んでお使ひになると云つた風がございませう、私自身に就いて申し上げますれば、風景畫が好きで、それも殊に麗らかな日光が射して居る樣な極晴やかな明るい調子の畫が好きなのでございます、陰氣な畫よりも何うも陽氣な畫の方が　持好く感ぜられるのでございます。

洋畫には限りませんが、私は婦人には繪畫の趣味を有つて戴きたいのでございます、繪畫を專門となさらぬ婦人でも是非水彩畫位を研究なさつて戴き度いと思ひます。婦人は家庭に在つて兒童を教育しますのも其の役目の一でございますから、母の任としては是非繪畫の趣味を養成して戴き度うございます繪畫趣味のございます婦人と、ございません婦人とでは子供の教育法も餘程違ひませう、多少――繪畫の研究をなされば、色の配合等に就いて自然心を用ふる樣にもなりますれば又室内裝飾に就いても注意遊ばすやうになりませうと存じます。（新小説）

▲流行の髮

桑島千代

近頃の流行はどんなだと仰しやりますのですか……

、……あまりくはしくは申上られませんが、ざつと申しましたらこんなものでせう。

近頃の丸まげは、あまりうすくなく厚ぼつたい方

が流行しますし、島田髷は土地〳〵の風習もありますから一槪には申されませんが、あんまり變りがないやうです。また銀杏返しは此頃少々ばかり長みを持たせる方が流行りますやうです。これも人樣のすき〳〵ですから如何樣にもお好次第ですが……。又びん。の鹽梅は此頃中びんでふつくりさしてたきますやうです、たぼ、は少しばかり出しました方がねり頸がよく見ねましてよろしいやうに存じて居ます。

前髪は丸くあまり出さない方か流行かと思ひますハイカラ髷は素人、黒人中々位にたゆひになります、この髷は以前のやうには額口へ出しませずこのせつは、中越のちよつとしたあまりかぶさらないのが流行しますやうです、之に從ひまして横びんもせい〴〵つまり加減なやうに見受ます。一しきりのやうに此髷はたそろしい流行は致しませんが、それでもまだ〳〵失せませず奥さんた孃さん方を初め中々にはやつて居ますやうです、之と同じやうに一方近頃は大分日本髮が流行して來ました、矢張日本特有の髮のゆひ方は何時までも變りなく何さなく奥ゆかしくつて品のよい處からどうしましてもすたれませんで、依然日本髮が勢力を張つて居りますよ、とは申し、一得一失は免れませぬものと見ねましてハイカラ髮は輕便ですから夏向はなか〳〵多いやうですが冬向はどうしましても日本髮に限りますよ……。

た屋敷の奥さん達も夏向はハイカラ髮ですが冬向は失張り丸まげが多い樣です學校へなんかた出の孃さんは主にこのハイカラ髮だと私が今更申上ませんでも皆さん方がよく御承知の事です。(新小說)

▲家庭暦をお作りなさい

國家には暦があッて、年中行事を規定して置きますが、家庭の集まりたるものが國家でありますから小國家たる家庭にたいても其の年中行事たる家庭暦を作る必要があると思ひます。記者の考案になる家庭暦は左の通りであります。

▲祖先祭　祖先崇拜の日本の家族制度に於ては、別けて祖先を大切にする事が必要である。我が家の何代目の祖には斯の如き偉績があッた、何代目の祖は如何だッたと、代々親から子に敎へ傳へてこそ、子孫も大に奮勵して　祖先を辱めしぬだけの人間が出來るのであります、故に一年の内に盆とか正月とか祖先の祭日を選んで、祖先祭を執行し、成る可くは親類一同を招き寄せ、我が家の歷史に就いて物語る機會を作ることが必要であります。

▲誕生日　誕生日を祝ふことが一家に取ッては最も大切であります。此の誕生祝は主人の誕生日よりも寧ろ家にある老父母及び子供の誕生日を祝ふことが必要でありまして、老人は友達も少く、仕事もなく變化に乏しい生活をして居るものでありますから、老父母の誕生日を子孫が擧ッて祝ふ事は、考父母に對してどれだけ慰安になるか知れません。又子供の誕生日を祝ふ事は、子供をして自己の存在を覺らしむる點によき動機を與へるものであります。子供は平生は父母に從屬して居て殆ど自己あることを知らないのでありますが、自分を中心として家族一同が祝ッて呉れると云ふ事になると、子供の身に取つてはどれだけ嬉しいか知れず、子供の前途に光明を與ふる事になるのでありますから、是非誕生祝を擧げる事が必要であります。

▲企業記念日　是れは重に商業家、工業家等に於て定めたらよからうと思ふのであります。商業家の方には夷講(十月廿日)があり。工業家の方には鞴祭(十一月八日)がありますが、此の外に一家が或る事業を企てた記念日を取ッて御祭りをするのであります。

▲親族招待會　家族主義が廢れて個人主義に移りかはりかけて居る今日では、親族關係が餘程薄くなッて來ました。互に利害關係があれば往來もするが、用事のない時は一箇年中一度も親類同士が顏を會はさぬ事がある。親類と云ふ以上は互に親密にする必要があるのであるから、出來得れば年に一度位は、親類一同を招いで饗應する事が必要であります。

▲下女の慰勞日　下女も段々文明的になッて來ますからして、少しの慰安をも與へずに絕ねず使ふ事は出來なくなりました。故に年二度位は下女の爲の慰勞日を設けてやり、二三日は里行きをも許してやり下女が自由行動を取つても差支ない日を規定して置いて相當に遊ばしてやる事が必要であります。

▲虫干日　一家の財貨に虫が入らぬやう、相當な日を定めて虫干をするのであります。又此の日は物品點檢日でありまして、物品台帳に照して、物品が悉く存在して居るや否やを確めるのであります。不必要品は然る可く處分して、必要品を成る可く手近な處に揃へて置くやう整理する事が必要であります。

(家庭之友)

隨感

一

安井哲

▲女子を眞面目に、上品に、且淑女らしく育てやうとするには、其父兄、其男敎師は勿論、先輩男子が眞面目に紳士らしくある事を切望致します。折々敎育家として、學者として、先輩として、又は父兄として尊敬して居る所の男子から、最野卑な諧謔を聞く事があります。而も其諧謔は時としては、最眞面目な題目を說明する爲めに用ひられ、其話の乾燥無味に陷り易いのを防ぐ爲めに殊更に交へらるゝ場合があります。是等は愼みある紳士の口からは、決して婦人の前に云はれぬ事でありますのに、一般に趣味の低い吾國の社會では、かゝる事をいつても人も怪しまず、又年若い淑女も却つて之れを面白がる傾があります。其故家庭では父兄の口から、かゝる事を聞いた事もない女子でも、演說や雜誌等から聞き覺わる樣になります。勿論同性間又は異性間の交際でも、始終四角四面の事ばかり言つては居られません。殊に活潑な精神を以て居る人は、常に社會の面白い方面を余計に見ますから、快活な調子で、他人ならば口說くべき事を、滑稽に言ひ表はす者でありますが、是等は誠に面白い感じを興へる者であります。併此場合に起る興味は、決して野卑な又は猥褻な分子に依つて刺戟されたる者ではなくて最眞面目な、併吾々の少しも思ひ付かぬ觀察點を面白く感ずるのであります。私は女子を敎ふる男子の先生方や、女子に講話なをる男子の演說者や、或は又女子を評論する文士方が、此點に少しく注意せられて、青年の淑女に不知不識下等の趣味を養成し、老年の女子をして年若き婦人の爲めに、顏を赤らめしめぬ樣に願ひ度いのであります。

▲男女の間の關係を聞き苦しく公言する國民は、吾國以外他にありませうか。シャムの如きは多くの妻妾を蓄ふる國風でありますが猥褻な事柄を餘り公言しません。吾國では下流社會の子供の遊戲を見、又た喧嘩を聞きますと、實に顏を赤めねばならぬ事が澤山あります。而も之れを聞いて居る親達が、面白そうに互に大笑ひして居るなどは、實に言語道斷であります。幼少の折からかく育つた子供に眞面目な感情を養ふ事は實に困難であります。一國民大體の道德程度は、先道を歩いて見て想像する事が出來ますが、西洋婦人などゝ吾東京市中を歩く時に幾度下等な言葉を聞かされて赤面するかわかりません。私は小學校の先生方が今少しくかゝる細かい點に注意せられて、男女の幼年生徒に最眞面目な、最上品な感情と作法とを敎へられん事を希望致します。それには敎育家身身が先以て異性に對する眞面目な感情と、禮儀とを失はぬ樣にせねばなりません。

二

元良よね子

書家といふ者は時々讀み難い文字を書きますので、一字離したら書た御本人でも讀めないことがあるとか聞きました。その讀みにくい處に價値があるのか何か存じませんが、我々の樣な無筆同樣の者は、少々下手でも讀み易い字が結構です。殊に手紙に於て左樣です。肝心要らしい

處に判斷も出來ないやうな文字が置てあるため、全文の意が解らず、遂に用事が足りないといふことでは甚困ります。それから又たとひ用信でなくとも、折角遠方に在る親友の許からでも手紙が來た時など、大喜悅で早速封押切て見ますと、何だかむづかしい文字許かり行列してゐて、首を捻り〳〵やつとの事で讀み終るといふやうだと、有難味が薄いやうです。夫に反して苦もなくすら〳〵と讀み下せると其人に會て談話を聽くやうな心地がして、殊の外懐しく感ずるものです。

三

相原生

▲吾等の生活が常に氣分に大關係ある事は、誰でも知つて居る事ある。例へば同じ事をするにしても、或時は非常に愉快に爲され、他の時には之と反對に頗る懶く思ふ時もある。文章を書く人などには能く聽くのでありますが、心に思ふことをすら〳〵と書かれる時と、如何に苦んでも文章の緒が出ない時があるそうです。詩人の所謂詩趣湧くが如く、奇想天外より來るといふ樣なことは矢張此氣分が最も良い時と見られませふ。短歌の女詩人として有名な與謝野晶子女史の如きは歌が出來る樣になつてくると何時も、自分の所有物を他人に與つて了いたい氣分になられるそうで、或夏などは歌が出來た代り、自分の單衣を殆ど下婢に呉れて了つたことがあつたといふことです。之に反して氣分が惡いことの極端なのは、彼の恐ろしいヒステリー患者の發作の如きものでありませふ。詩人のイスピレーションとヒステリー、之は吾々の氣分が昇降する兩極端と見られます。

▲氣分は私共が他に對することを支配する計でなく、自分の心の生活にも大影響を與へます。米國のキング博士は、私共の靈的生活が見た所は至つて不確實なものと思はれるのには、氣分といふことが大に與つて力あると申して居ります。例へば或時は頗る樂天的であるのに、他の時には何事にも悲觀的態度をとり、生きて居ることさへ重荷の樣で、人生の荒涼に堪へないといふ樣なことがあつたり。或は宗教上の眞理に對する確固たる信念が俄に弱くなり、靈的生活の興味次第に衰へて、理想も眞理も一切空の空なる樣に思はれたりすることなど、皆是れ其時々の氣分に因るものであります。

▲それなら斯く私共の內外の生活に大關係のある氣分なるものは一體何であるかと申すに、或學者は之を以て吾等の身體總體から起る感情で、之れと極のつかない感情であるといふて居ります。それは兎に角肉體の生活感情が氣分であるとすれば、程度こそあれ何人も氣分の支配は免れないのであります。成人殊に老人は固まつた方であるから少ないけれど、肉體の發達盛んにして、生活力の常に漲つておる青春の男女は、最も多く之に支配されるのである。故に或者は快活にして木の葉の落るにも笑を禁ずる能はざるかと思へば、或者は非常に激しく煩悶懊惱して神經衰弱となり、遂には自ら生命を失ふにも至るのである。

▲道德的に見て氣分に對しては何うしてよいか。前途に輝く希望のある清淨無垢の青年男女は、先づ自分が氣分の低潮を感じた時には、此の氣分が一時的のものであつて決して、永久的のものでないといふことを心得、氣分的失望を眞の失望

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

となすことなく、一時的の信仰を弱くすることから、永久的の信仰墮落を導かない樣にしなければならないと思ふ。それには第一に誘惑の起り易き境遇に近寄らぬことが大切である。次には清新高尙なる趣味のある娯樂によりて、氣分の靜養と恢復を計るもよからふ。併し更に良策と思はれるのは。日常自分の敬愛する師友先輩に接し、其溫容人格に親炙することである。殊に敬虔にして高德なる信徒の如き、或は信仰を以て世路の艱難と戰ひ、尙暖い心情を有つて居る人の如きは、最も斯る青年男女の友となり又救となることか出來る。大なる人格は一の磁石力であります。能く他人を牽きつける許でなく、之に力と生命とを分け與へます、否之を內から惹き起すのであります。實に私共は德高い人と相對して居る時は、自分の內なる靈と眞理とが自から湧き出で、躍り出づるのを感ずるではありませんか。最後に此等に優りて、如何なる場所、又斯る人に遇はれない場合に於いても有効なる最良の策は、矢張り信仰であると私は思ふ。信念の弱つて居る時、信仰に據るとは、一寸矛盾の樣だけれど然うでありません。誰かの言に、祈られない時に祈れといふことがあります。宗教的生活の妙味と特恩とは、茲にあるかと思はれます。

四

本誌前號隨感欄に於て主幹海老名彈正氏は作州津山に於ける擴張傳道の際親しく握手したりし青年を想ひ、彼等の幸福なる生活と重大なる責任を敘して、山里の傳道の忽にすべかざるを述べましたのは讀者諸君の已に御承知の處であります。然るに其記事中の青年坂手宗一君は遙々書を主幹に寄せて自己の感想を開陳されました。左の一編が即ち其手紙です。讀誦一過、記者は其眞摯なる態度、敬虔なる信仰と而して又絕ゆざる努力とに對して萬腔の敬意を表するに吝ならざるものであります。一人の熱心は實に他に夥多なる熱心を誘起する事實を今現に坂手君に見る事を得て衷情よりの歡喜を禁ずる事が出來ません。請うて之を紙上に揭ぐるに當り記者は主幹と共に君が信仰と事業の上に神の恩惠が益々深からむ事を祈ると共に、誇る可き信仰の友として之を讀者諸君に紹介し得る事を喜びます。文言は眞摯なる君が風貌を最もよく傳ふるもの、一字一句と雖も增減する事なく原文の儘を揭載致しました。（記者）

謹啓去る十二月七日津山擴張傳道の際は限り無き御敎訓を給り、尙同夜吾等の爲めに御祈を給り、其れのみならず御握手を給り誠に光榮身に余る次第にて赤心より感謝仕候

小生は去る三十九年神戶にて勉學中神戶敎會にて閣下の御講演を承り、尙翌日兵庫敎會にても御演舌を拜聽致し其年末に當地山奧に歸鄕致してより以來、新人及閣下の御著書を無限の趣味を以て拜讀致し今日に至りたる次第に御座候

然るに去る日津山にて閣下の御講演有る由、守田先生よりの御通信を給り申候故、成る可く友人を多く伴ひて參る積りにて六人の親友に計り、是非共同道致す約束を致し居候へ共、何れも基督敎と云ふ名に恐れ、漸く一人の友人を同伴の上罷り出候へ共何分用事多忙の爲め歸宅致すの止むを得ざる事情有之甚遺憾に候故、せめては一度閣下に御拜顏の榮を給はゞ此よりの幸福は無しと思御伺申上候處閣下は卑賤なる余等も見捨給はず、厚き敎訓を給り、誠に感淚の外何の言葉も無之候

小生の當地に歸りしより三年間は只一人にて、信仰の友は新人よう外には何一つも無之候ひしも、昨年秋より過日津

山に同伴致し候信仰の友一人を得大に喜び居候處　昨年末東京より醫師を致さる熱心なる基督教信者御夫婦當地に開業致さるゝ事に成り、計らずも三人の新しき友を得たる次第にて、愈々意を決し、吾牧師の御出張を求め、第一回の家庭の集りを開き申候處、四十幾人の來會者有之、尙毎月二回祈禱會を開く事を定又來月よりは日曜學校を開く都合に御座候。それに付ては小生兼てヲルガンとバイヲリンを購入致し居候て甚好都合に御座候。

小生は去る三年間の孤獨なる信仰生活の心細かりしを顧み、今日の歡ばしきに比すれば實に感想無限にて、天父の御惠の厚きを思ひ起す度に感謝の外無之候、願くば閣下吾等の爲めに祈り給はん事奉願候。

尙申上度御座候は閣下の御握手を給りてより、小生は常に我右手を見て、如何なる場合にても、此右手にては惡事を決して致す間敷と常に戒め居候。幸にして萬一余の如き者にても、神の御惠みに依り、御榮の一つをも表す事を得、再閣下に御拜顏致す事も有之候節は、再び握手を給り度奉願候。次に吾等の最も愛讀する新女界新年號の隨感の欄を拜讀致し甚恐縮仕候。願くば山里の傳道を助け給はん事奉祈候。

閣下は吾等の思想を新女界隨感欄の初め十四行に殘らず書き給へり。

小生は四年前弟と共に芝草を刈り取り其跡に杉苗を植付申候處、地味の宜敷と神の厚き御惠に依り目下にては長きは七尺にも成長致し居候が、小生は何時も此杉林の中に入る度に祈禱の念禁じ難く其黑色を帶びて澤山の杉木の成長致す樣を見て、云ひ難き喜び有之候。それも他人の植ゑし木は左程には感じ不申候へ共、自分の植付たる木の成育を見れば一層の喜びを感し申候。

又小生は昨年仕事の余暇に「ツグネイモ」を栽培致し候處、以外に好結果を得て喜び居候。小生の思によれば何を作るとも肥料や栽培の事だけにては出來得るとは信じ難く、何か其外に大なる力の加はるに非ざれば、出來ぬ事を信せずには居られません。

私は幸です、私に幾分の信仰を神が與へ給ひしは何よりの幸福です。私は「ツグネイモ」を掘り取りました時は限り無き喜を感じました。此れは實殘りの粗末な品では候へ共、小包にて送り置候間御落手の上我等の喜びを共に御喜び給りたく候。

之れよりは我等の責任の益々重きを感じ申候故、願くば閣下御手すきの節短かき一書を給り度奉願候。尙吾等の讀む適當の書（基督教に關する）を敎え給り度候。文意要領を得ず、書き方甚亂雜に候へ共も、平に御許し給りたく候。

吾等の好む讚美歌二百八十四番

一月十四日　　坂手宗市

海老名彈正閣下

五

鈴木生

▲社會文明の進むに連れて、益々高く叫ばるゝ悲痛の聲は、即ち「生活難」の叫聲であります。社會は益々奢侈に流れる、生活の程度は自づと高まる、出づる所は愈々多きも收入は決して其割合に進まない、「生活難」は即ち此間に叫ばるゝ遣る瀨なき煩悶の聲であります。

▲今の世何人か生活難に苦しまぬ人があ

りませう。其程度、其範圍に於てこそ差別もあれ、苟くも質素儉約な單純生活に滿足する人にあらざれば、恐らく此苦痛を味はぬ人は、中流以下の社會には先づ稀れでありませう。口にこそいはね、心には一樣に感じて居るに相違ない。今の世の人何となくそわ〳〵して凡ての社會の人々を通じて浮足立つて見えるのは、蔽うて蔽はれず、隱すに隱されぬ、生活の壓迫を感ずるがためではありますまいか。

▲つまり今の世では供給が需要に超過して居るのです、人が多過ぎるのでせう。狹い所に多人數入らうとするから勢ひ生存競爭が起る、勝者は以て得々たるべきも、劣者、弱者、敗者はいふべからざる悲慘の淵に沈まねばなりません。否、今日の勝者も明日の敗者たらざるを必し難い有樣である。而してかゝる現象は文明の進むと共に益々烈しからんとするのです。彼の歐洲諸國に於て、失業者の多いといふは、畢竟するに此原因即ち供給過多に依るのでありませう。

▲失業者救濟の問題は一大社會問題ですから、玆には述べません。たゞ今日中流社會に於て同じく此苦痛を味ふもの、如何にして此境遇に處し、如何にして此難關を切りぬくべき乎、これはお互に是非考へおかねばならぬことゝ思ひます。

▲私は思ふ、第二は質素儉約な單純生活に滿足する事です、第一は各其職分を守つてそこに安住の地を見出すことです。吾等の生存は吾等自身のためであるから敢て他人をまねて贅澤をする必要はありますまい。苟くも自分の健康に支障なき限りは綿服でも麥飯でも恥づることはなからうと思ふ。即ち最小限度の生活に滿足するのです。これ日常の經費を節するの第一條件であります。

▲次ぎにはおのが職分にいそしんで、安心をこゝに求めるのです。自分の職分を遺憾なく盡して居る時に、實にいふべからざる安心と快樂とを覺ゆる。此安心たる、此快樂たる、到底浮世の財寶を以て購ふべからざるもの、所謂威武も屈する能はず、富貴も侵す能はざるものです。銹びず腐れず盜まれざる天に財を貯ふるものゝ胸には、そこに不斷の春風そよぎ、そこに安慰の泉は湧く。

▲勿論積極的に多分の收入を得ることが出來るなら、これほど結構なことはないので、富貴に何も決して卑むべきものではありません。けれども人生の事往々にして齟齬す、この境に臨んで動せず屈せざるの覺悟は平生に於て甚だ必要のことゝ信じます。

たまだれ

元良よね子

○

七歲(?)のよし子さん(長尾氏令孃)とみっちやん(野口氏令息)とはお隣同志で二歲ちがひの大仲好。よし子さん姉樣氣取で「みっちやん、そんな物女の持つ物よ」とやさしい言ひ方。やがてみっちやんの活潑な聲で「うち、かあちやんは女だよ。

○

勳が六歲の時、ある日知人の家に遊びにゆきまして、「神恒觀察我」と書た額が床にかけてあるのを見て「あれ何と書てあるの?」と問ひましたので其家の主人が「神樣は何時でも私共を御覽になつてゐらつしやると書いてあるの」と答へましたら「そんな事書き付けて置かないでも解つてゐるぢやありませんか」。

彙報

●女子教育會　下田次郎氏の主幹せる同會は本月十三日午後一時より本郷教會に於て學術講演會を開催する由。

●第八回心理學通俗講話會　本月十二日午後正二時より法科大學三十二番教室に於て開會、講演者及演題次の如し。子供の臆病、文學士　倉橋惣三氏　人相と骨相、ドクトル　富士川游氏。尙婦人席の設あり。聽講料金十五錢。

●野口末彦氏　本鄕教會副牧師にして本誌の社員として永らく其經營に當られたる同氏は前橋敎會に轉職せらるゝ事となり、期日は未だ確定せざれど今月上旬を以て赴任せらるゝ由。

●吉野作造氏　東京帝國大學法科大學助教授にして本誌の社員なる同氏も今般留學生の名譽を得本月中旬洋行の途に就かるゝ筈。

新刊紹介

●相愛記　黒瀨二水著　興樂房發行　定價金六十五錢

「行々は傳道師にならうと云ふ志望も間もなく薄らいで、文藝の方面に赴いた」黒瀨二水氏が春駒の意氣を以て世に問ふた處女作である。此の作には次の樣な苦心が伴つてゐる「昨年の三月から稿を起して途中一度改作して七月から今年の二月迄に可なり長いものを書き上げました。而して國光社へ印刷を賴んだが二月の十八日の晩其印刷處は全然燒けて了つた。で私は五月二十四日から又も起稿して矢張前と同じ相愛記を九月二十七日に脫稿したのです」と、まづ其苦心に同情せねばならぬ。事業に失敗し戀愛に敗れた主人公宮井信夫及陰險なるオールドミス山邊花子の心情は可なりによく描寫してある。思想配材及行文に就ては著者は尙ほ考慮を要す可き處が多いけれども、處女作として最も不利益なる長篇を以て世に問ふた勇氣は賞讃すべきである。基督教文學の寥々を極むる今日吾等は大に子の奮起を望まざるを得ない。

●忘れな草　紫園山人譯　民友社發行　定價金四十錢

エリザベス、プレンチースの原著の一部を譯したるものにて處女の日誌體に作りたるものである、我儘な娘が母親の心を痛ました告白より、幼き戀愛の失敗又は幸福なる結婚に至る半生の懺悔は現今の吾國男女交際の上に一道の暗示を與へてゐる、江湖のた孃さんがたにおすゝめ申します。

本誌定價　一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價　壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料	
一行廿七字詰	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
內表紙十二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割増の計算にて御送附設下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年一月二十八日印刷
明治四十三年二月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彦
發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用／八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二一番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

ライオン煉歯磨

朝の寝覺の心地悪しきも一度ライオン煉歯磨を用ゆれば心身忽ち快活なること恰も大旱の苗に沛然の雨を得たるが如し尚且つ歯牙をして健全雪白ならしむ特效に至りては既に愛用諸彦の實驗に徵して明なり

新製(十二)號は乳白色の瓶入にてニツケル蓋を有し體裁美なる楕圓形にして日常の御使用に便なり

◉定價　壹個僅に　十二錢

試用見本

として御入用の方は郵券十二錢御送付あれ一個郵送す

發賣元

東京神田柳原川岸

小林富次郎

明治四十三年二月一日發行第貳卷第貳號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN